

商法
保險法講義

東京高等商業學校教授
兼東京帝國大學
法科大學博士

志田鉀太郎君講述



完

明治大學出版部發行

本

保險法

(商法第三章
編第十章)

講義目次

第一編	總論	一
第一章	保險ノ概念	一
第二章	保險ノ種類	三
第一節	營業保險及相互保險	三
第二節	損害保險及生命保險	四
第三節	損害填補保險及定額保險	五
第四節	陸上保險及海上保險	六
第五節	物保險、財產價額保險、生命保險並ニ再 保險	七
第六節	餘論	九

第三章	保險ノ技術	一〇
第四章	保險ノ歴史	一三
第五章	保險ノ法源	一五
第六章	保險ノ著書	一六
第二編	營業保險法論	一七
第一部	損害保險契約	一八
總論		一八
第一章	損害保險契約ノ概念	一八
第二章	損害保險契約ノ要件	二一
第一節	當事者	二三
第一款	保險者	二三
第二款	保險契約者	二九

第二節	危險	三六
第三節	被保險利益	五二
第四節	保險料	六二
第五節	損害及其填補	六六
第六節	保險期間	七六
第三章	損害保險契約ノ取結	七七
第四章	損害保險約上ノ法律關係ノ變更	七九
第五章	損害保險契約上ノ法律關係ノ消滅	八〇
各論		八一

第一章 火災保險契約……………八一

第一節 火災保險契約ノ意義……………八一

第二節 火災保險契約ノ當事者……………八二

第三節 火災保險契約上ノ被保險利益……………八二

第四節 火災保險契約上ノ危險……………八四

第五節 火災保險契約上ノ保險料……………八五

第六節 火災保險契約上ノ損害及其填補……………八五

第七節 火災保險契約上ノ保險期間……………八六

第八節 火災保險契約ノ取結……………八七

第二章 運送保險契約……………八七

第一節 運送保險契約ノ意義……………八七

第三章 運送保險契約……………八七

第二節 運送保險契約ノ當事者……………八七

第三節 運送保險契約上ノ被保險利益……………八八

第四節 運送保險契約上ノ危險……………八九

第五節 運送保險契約上ノ保險料……………九〇

第六節 運送保險契約上ノ損害并ニ其填補……………九〇

第七節 運送保險契約上ノ保險期間……………九一

第八節 運送保險契約ノ取結……………九一

第二部 生命保險契約……………九二

第一章 生命保險契約ノ意義……………九二

第二章 生命保險契約上ノ要件……………九五

第一節 生命保險契約上ノ當事者……………九五

六

第二節 生命保險契約上ノ危險……………一〇二

第三節 生命保險契約上ノ保險料……………一〇七

第四節 生命保險契約上ノ保險者ノ給付……………一二〇

第三章 生命保險契約ノ取結……………一二二

第四章 生命保險契約上ノ法律關係
ノ變更及消滅……………一二三

第三部 再保險契約……………一二四

保險法講義目次

保險法 (商法第三章 編第十章)

第一編 總論

第一章 保險ノ概念

東京高等商業學校
教授兼東京帝國大學
法科大學教授
志田 鉀太郎君講述



保險ハ財産上ノ危險ヲ共同ナラシムル經濟上ノ團體制度ナリ其財産上ノ危險ノ種類タルヤ千種萬別或ハ人ノ生死ニ關スルモノアリ或ハ有形財産又ハ無形財産ノ滅失毀損ニ關スルモノアリ今此團體制度ヲ法律的ニ説明セントスルニハ團體ナル語ヲ廣義ニ解セサルヘカラス而シテ法律上團體ヲ嚴格ナル意味ニ解スルトキハ公法上ノ團體ハ別論トシテ私法上ニ於テハ法人團體組合團體及

ヒ親族法上ノ團體ノ外ニ出テス然ルニ保險制度ニ於ケル團體ニハ法人團體タル場合アリ、法人團體ニモアラス亦組合團體ニモアラス勿論親族法上ノ團體ニモ屬セサル特種ノ團體タル場合アリト雖トモ之ヲ大別シテ二トナスコトヲ要ス其一ハ相互保險會社トシテノ非營利的社團法人ニシテ其二ハ株式會社ヲ中心トナス所ノ特種ノ團體ニシテ此團體ハ所謂保險契約ヲ取結ヒタル會社ノ方面ヨリ觀察シテ營利保險制度ト名ケ第一ノ團體タル相互保險制度ニ對セリ保險制度ノ法律的觀察ハ前述ノ如シ我商法ハ第二百六十四條ニ於テ保險ヲ相對的商行爲ノ一トシテ掲ケ又第三百八十四條ヨリ第四百三十三條ニ到ル迄ヲ保險ト題シテ專ラ損害保險及ヒ生命保險ノ二ニ付テ規定シ第六百五十三條乃至第六百七十九條ヲ以テ損害保險ノ一種タル海上保險ニ付テ規定ス我輩ノ本講義ニ於テ述ヘントスル所ハ主トシテ商法ニ所謂保險ニシテ相互保險制度ヲ除外シ專ラ營業保險制度ノ説明ニ止マルモノトス故ニ營業保險制度ノ主眼タル法律行爲換言スレハ此制度ノ中心ヲ成ス株式會社ト其團體ニ屬スル者トノ間ニ取結ハル、所謂保險契約ナルモノ、定義ヲ左ニ掲クヘシ

保險契約ハ當事者ノ一方株式會社カ相手方團體員タルヘキ者ヨリ報酬ヲ受ケテ多數ノ人團體員ノ間ニ廣義ニ於ケル財產的危險ノ共同負擔ヲ爲サシムヘキコトヲ自己ノ名ニ於テ實行センコトヲ約スル營業的契約ナリ此他保險ノ概念ニ付テハ種々ノ學說アレハ就テ參照スルコトヲ要ス

第二章 保險ノ種類

第一節 營業保險及ヒ相互保險

本講義ニ於テハ相互保險ヲ除外スルノ趣旨ナレトモ營業保險ノ何タルヤヲ知ランニハ先ツ相互保險ト營業保險トノ差異ヲモ知ラサルヘカラス故ニ一言茲ニ之カ區別ヲ論セントス而シテ相互保險ハ財產的危險ノ共同負擔ヲ實行スルコトヲ以テ目的トスル社團法人ノ内部關係換言スレハ社員カ法人ニ對シテ有スル法律關係ヲ主眼トスルモノナリ反之營業保險ハ財產的危險ノ共同ヲ實行スルヲ以テ目的トスル社團法人ノ外部關係換言スレハ第三者カ其法人ト契約ヲ取結ヒテ之ヲシテ危險ノ共同負擔ヲ實行スルノ責ニ任セシムル法律關係ニ

外ナラス隨テ相互保險ト營業保險トハ其本體ヲ異ニシ其目的ヲ同フスルモノトイハサルヘカラス

第二節 損害保險及ヒ生命保險

損害保險ト生命保險トハ我商法ニ用キラル、對語ニシテ保險ノ研究上最モ重要ナル觀念ナリ生命保險ナル語ニハ廣狹二義アリ廣義ニ於テハ人事ニ關シテ苟モ財產的危險トシテ取扱フコトヲ得ルモノナルトキハ其危險ノ共同負擔ノ實行ヲ目的トスル保險ハ悉ク生命保險ノ中ニ入ルヘキナリ狹義ニ於テハ人生存又ハ死亡ヨリ生スル所ノ財產的危險ノ共同負擔ヲ實行セントスル目的ヲ有スル保險ノミヲ生命保險トス我商法四百二十七條ノ規定ハ此狹義ノ解釋ヲ採用セルモノ、如シ損害保險ナル語モ亦廣狹二義アリ廣狹ニ於テハ總テノ保險ヲ包含ス何トナレハ財產的危險ノ實現スル場合ハ即チ損害アリト考フルコトヲ得サルニアラサルヲ以テ隨テ總テノ保險ハ此意味ニ於テ損害保險ト言フヘキナリ狹義ニ於テハ其共同ニスヘキ危險ノ性質並ヒニ危險ノ共同ヲ實行ス

ル方法ニ付テ制限ヲ加ヘ即チ損害保險上ノ危險ハ必ス特定ノ財產的利益(被保險利益)ヲ侵害スヘキモノナルコト、危險ノ實現ニヨリテ其財產的利益ヲ滅失若クハ減少シタル部分(即チ嚴格ナル意ニ於ケル損害)ニ限り之ヲ共同負擔ニ算入スヘキコトノ二條件ヲ必要トス換言スレハ損害ヲ狹義ニ解シテ現實ノ財產的不利益トナシ其損害ヲ共同ニ負擔スル場合ニ於テノミ損害保險ハ存立ストナスモノナリ故ニ損害保險ハ一名之ヲ損害填補保險ト稱スルコトヲ得ヘシ今狹義ノ損害保險ト生命保險トヲ對照スルトキハ生命保險ニハ危險ノ共同アレトモ損害ノ共同ナシ損害保險ニアリテハ危險ノ共同ト損害ノ共同トヲ合セ存スルモノト説明スルコトヲ得ヘシ我商法ハ損害保險ナル語ニ狹義ノ解釋ヲ採用シ第三百八十四條ノ規定ヲ以テ其意義ヲ明ニセリ

第三節 損害填補保險及ヒ定額保險

損害填補保險ナル語ハ狹義ノ損害保險ノ一種ニ用キラレタルモノニ外ナラサルナリ然ルニ定額保險ナル語ハ特種ノ觀念ニ基クモノトス即チ定額保險トハ

豫メ約定シタル一定ノ金額ヲ危険共同負擔ノ實行ニ付テ唯一ノ標準トナス所ノ保險ナリ例ヘハ狹義ノ生命保險ノ如キハ其主要ナルモノニシテ危険ノ實現セル場合ニ損害ノ生シタルト否ト又損害價格ノ多少如何等ハ何等問フコトナクシテ約定ノ金額ヲ絶對ニ支拂フ保險ナリトス此區別ハ保險ヲ全ク二分スルコトヲ得ルモノニシテ學理上最モ重要ナルモノナリ次ニ彼ノ疾病保險及ヒ火災保險ノ如キハ危険實現ノ状態ニヨリテ或ハ其定額ニ幾分ノ變化ヲ來スニ至ルヘク而モ其變化ハ多少損害填補ノ意味ヲ含ムカ故ニ或學者ハ此等ヲ損害填補保險ト定額保險トノ折衷ナリ中間制度ナリト云ヘトモ我等ハ如斯折衷若クハ中間ノ制度タルコトヲ否認シ何レモ定額保險ノ一種ナリト説明セント欲ス

第四節 陸上保險及ヒ海上保險

此區別ハ危険ノ存在若クハ實現ノ場所ニ依ルモノニシテ即チ陸上ニ於ケル危険ニ對スル保險ハ陸上保險タリ海上ノ危険ニ對スル保險ハ海上保險タリト謂フヲ得ヘシ然レトモ之ヲ正確ニ論スルトキハ多少ノ例外ナキニ非ス即チ生命

保險ハ陸上保險ノ一種ニ屬スレトモ尙ホ海上ニ於ケル死亡ヲモ取扱フコト疑ヲ容レス又海上保險ニ依リ貨物カ一定ノ港ニ陸揚ケセラレタル後ノ危険ヲモ負擔スル場合ナキニ非サルカ如キ是ナリ要スルニ此區別ハ商法ノ沿革上嘗テ重要ナリシモノニシテ今日ニ至ルマテ尙商法ノ解釋上ハ多少ノ意味ヲ有スルモノト謂ハサル可ラス即チ商法第六百五十三條以下ヲ海上保險契約ト題シ古來發達シ來リタル海上保險ノ法理ヲ包含スレハナリ但國內水上ニ於ケル危険ニ對シテモ保險ノ必要アルヲ以テ之ニハ海上保險ノ原則ヲ或程度マテ準用若クハ適用スル必要アル可ク將來ハ陸上海上ノ兩保險ノ區別ハ遂ニ滅失スルニ至ル可キ運命ヲ有スルモノナリ

第五節 物保險、財產價額保險、生命保險 竝ニ再保險

此區別ハ現今獨逸ノ經濟學者カ保險ニ依リ達セントスル目的ノ種類ニ因テ設ケタルモノニシテ一應其義ヲ理解スルノ必要アリ即チ其一タル物保險トハ物

保險法 第一編 總論 第二章 保險ノ種類 第四節 陸上保險及ヒ海上保險 第五節 物保險、財產價額保險、生命保險、再保險

カ自然力ノタメニ變化ヲ受ケ之カタメ其物上ニ於ケル財産的利益カ減少シ若クハ滅失スルコトニ對シテ備フル所ノ保險ヲ謂フ例ハ火災保險運送保險海上保險ノ三者ヲ初トシ家畜保險各種ノ農業保險等皆ナ之ニ屬ス其ニタル財産價額保險ハ自然力カ物ニ及ホス變化以外ノ原因ニ基キ發生スルコトアル可キ財産的損害ニ對シテ備フル所ノ保險ヲ謂フ例ハ信用保險盜難保險等之ニ屬ス其三タル生命保險ハ單ニ人ノ生死ヲ危險トスル保險ノミニ限ラスシテ人ノ生命身體等ニ關スル危險ニ對スル保險即チ廣義ニ於ケル生命保險ヲ指ス例ハ生存保險死亡保險生死混合保險疾病保險奇災保險老癯保險等之ニ屬ス其四タル再保險ハ或保險契約上所謂保險者ナルモノカ其契約上ノ債務履行ヲ一ノ特別危險ト看做シ之ヲ被保險利益トシテ更ニ他ノ保險者ト別個ノ保險契約ヲ取結フ場合ニ存スルモノナリ例ハ或家屋ニ保險ヲ付シタル保險會社カ更ニ他ノ保險會社ト契約ヲ取結ヒ一定ノ保險料ヲ支拂ヒ其家屋カ火災ニ罹リタル場合ニ其損害ノ填補額ヲ自己ニ支拂フコトヲ約セシムルカ如キ是ナリ

第六節 餘論

今日文明諸國ニ存スル保險ノ種類ヲ其危險ノ種類ニ依リテ逐一列舉スルニ於テハ殆ント百種ニ近キモノアル可シ然レトモ如此ハ法理上重要視セラレ、モノニ非ス唯タ茲ニハ法理上輕々ニ看過スヘカラサル二個ノ事項ヲ示スヘシ即チ其一ハ公保險及ヒ私保險ノ區別ニシテ其二ハ任意保險ト強制保險トノ區別是ナリ而シテ公保險トハ國家ノ機關カ保險ノ目的ヲ實行スル機關ト爲ルモノニシテ私保險トハ相互會社又ハ株式會社カ機關ト爲ルモノヲ云フ故ニ前ニ述ヘタル保險ノ定義ハ專ラ私保險ノ點ヨリ觀察シタルモノニシテ若シ公保險ヲモ包含セシメ概括的ニ保險ヲ論セント欲セハ保險ニ三種アリト云ハサル可ラス即チ公保險相互保險並ニ營業保險是ナリ

強制保險ハ保險契約ノ取結ニ付キ國家カ強制ヲ加フル場合ニシテ其否ラサル場合ヲ任意保險ト稱ス今日我國ニ公保險並ニ強制保險ヲ存セス乍併公保險ト強制保險トハ多クノ場合ニ於テ偶然符合スルモノナレトモ元來全ク別個ノ概

カ自然力ノタメニ變化ヲ受ケ之カタメ其物上ニ於ケル財産的利益カ減少シ若クハ滅失スルコトニ對シテ備フル所ノ保險ヲ謂フ例ヘハ火災保險、運送保險、海上保險ノ三者ヲ初トシ家畜保險、各種ノ農業保險等皆ナ之ニ屬ス其ニタル財産價額保險ハ自然力カ物ニ及ホス變化以外ノ原因ニ基キ發生スルコトアル可キ財産的損害ニ對シテ備フル所ノ保險ヲ謂フ例ヘハ信用保險、盜難保險等之ニ屬ス其三タル生命保險ハ單ニ人ノ生死ヲ危險トスル保險ノミニ限ラスシテ人ノ生命身體等ニ關スル危險ニ對スル保險即チ廣義ニ於ケル生命保險ヲ指ス例ヘハ生存保險、死亡保險、生死混合保險、疾病保險、奇災保險、老癯保險等之ニ屬ス其四タル再保險ハ或保險契約上所謂保險者ナルモノカ其契約上ノ債務履行ヲ一ノ特別危險ト看做シ之ヲ被保險利益トシテ更ニ他ノ保險者ト別個ノ保險契約ヲ取結フ場合ニ存スルモノナリ例ヘハ或家屋ニ保險ヲ付シタル保險會社カ更ニ他ノ保險會社ト契約ヲ取結ヒ一定ノ保險料ヲ支拂ヒ其家屋カ火災ニ罹リタル場合ニ其損害ノ填補額ヲ自己ニ支拂フコトヲ約セシムルカ如キ是ナリ

第六節 餘論

今日文明諸國ニ存スル保險ノ種類ヲ其危險ノ種類ニ依リテ逐一列擧スルニ於テハ殆ント百種ニ近キモノアル可シ然レトモ如此ハ法理上重要視セラル、モノニ非ス唯タ茲ニハ法理上輕々ニ看過スヘカラサル二個ノ事項ヲ示スヘシ即チ其一ハ公保險及ヒ私保險ノ區別ニシテ其二ハ任意保險ト強制保險トノ區別是ナリ而シテ公保險トハ國家ノ機關カ保險ノ目的ヲ實行スル機關ト爲ルモノニシテ私保險トハ相互會社又ハ株式會社カ機關ト爲ルモノヲ云フ故ニ前ニ述ヘタル保險ノ定義ハ專ラ私保險ノ點ヨリ觀察シタルモノニシテ若シ公保險ヲモ包含セシメ概括的ニ保險ヲ論セント欲セハ保險ニ三種アリト云ハサル可ラス即チ公保險相互保險並ニ營業保險是ナリ

強制保險ハ保險契約ノ取結ニ付キ國家カ強制ヲ加フル場合ニシテ其否ラサル場合ヲ任意保險ト稱ス今日我國ニ公保險並ニ強制保險ヲ存セス乍併公保險ト強制保險トハ多クノ場合ニ於テ偶然符合スルモノナレトモ元來全ク別個ノ概

念ニ外ナラス將來我國ニ於テ問題ト爲ル可キ勞働保險ノ如キハ強制保險ト爲スニ非サレハ其實行ヲ見ルコト能ハサルモノナレトモ之ヲ公保險トシテ認ムルカ又ハ全ク私保險ニ委スルモノナルカ將タ又公保險ト私保險トヲ併行セシムヘキカハ其勞働保險ナルモノ、範圍如何ノ問題ト各種ノ經濟事情トヲ研究シテ決定ス可キ事項ナリトス然レトモ我輩ハ目下ノ急務トシテハ勞働者ノ範圍ヲ限リ其奇災保險ヲ公保險トシテ強制スルノ必要ヲ認ムルト同時ニ所謂少額ノ保險金ヲ目的トスル生命保險(所謂廣義ノ勞働保險ノ一種)ハ之ヲ公保險トシテ實行スルノ必要アルモ之ヲ強制スヘキ性質ノモノニ非スト信スルモノナリ

第三章 保險ノ技術

保險制度ハ財産的危險ノ共同ヲ以テ其目的トスルモノナルカ故ニ此目的ヲ達スルカ爲メ保險技術ノ主眼トスル所ハ亦財産的危險ノ測定ト之ヲ共同ニスル方法トノ二者ニ外ナラス

第一 危險ノ測定

危險ノ測定ニハ抽象的測定ト具體的測定トノ二種アリ前者ハ統計ニ基キ或種類ノ財産其他危險ノ存ス可キ客體ニ幾何ノ危險ノ程度ヲ存スルヤヲ決定スルコトヲ指スモノニシテ所謂確カラシサノ計算是ナリ例ヘハ一ケ年間甲地ノ火災統計ヲ見ルニ其中所在ノ家屋ノ總價額一千萬圓ニ對シ年額ノ損害一萬圓ナリトセハ其地ニ於ケル各種ノ家屋ハ概括的ニ論シテ千分ノ一ノ危險ヲ負擔スルモノト謂ハサル可ラス又甲國ノ死亡統計若クハ其國ニ於ケル生命保險會社ノ死亡統計ヲ見テ二十才ノ人ハ平均三十五才マテ生存スルモノト認メ得ルトセハ二十才ノ人ハ尙ホ十五年生存スルコトヲ得ヘシトノ抽象的觀察ヲ下シ得ルカ如シ然ルニ後者即チ具體的測定ト謂ヘルハ特定ノ財産其他危險ノ存スヘキ客體ニ付キ危險ノ程度カ此種類ノ財産其他ノ客體ノ平均以上ニ出ツルヤ將タ亦平均以下ニ降ルヤ否ヤ等ノ事項ヲ各種ノ事情ニ基キ觀察スルモノニシテ例ヘハ東京市ニ於テ石造若クハ煉瓦造ノ家屋ハ火災危險ノ程度平均以下ニ下ルコト勿論ナル可ク若シ其所在地カ邊僻ノ土地ナリトセハ尙ホ其程度ノ下ルヘキモノト觀察ス可キカ如キ或疾病ニ罹リタ

ル者カ有スル死亡危険ハ所謂平均ノ程度ニ於ケル危険ヨリ一層昇レルモノナルコト醫師ヲ俟タスシテ明瞭ナレトモ其程度カ果シテ生命保険ヲ付スルコト能ハサルモノナリヤ否ヤハ之ヲ具體的ニ觀察シ醫學上ノ判斷ヲ俟タサル可ラサルカ如シ

第二 危険共同ノ方法

危険ヲ共同ニスルニ付テハ此危険ヲ有スル者ヨリ相當ノ出捐ヲ爲シ之ヲ其危険實現ノ場合ニ於テ保險者ヨリ受取ルヘキ價額ト理想上平均ヲ保タシムル必要アリ此必要ヲ満足セシムルカタメ前ニ述ヘタル危険ノ抽象的及具體的測定ノ結果ヲ利用シ例ヘハ火災保險ニ在テハ其被保險家屋ノ危険カ平均程度ニ在リトスレハ家屋ノ所有者ハ其全燒ノ場合ニ千圓ヲ受取ルカタメ毎年一圓ヲ支拂ヘハ可ナルカ如キ又生命保險ニ在テハ二十才ニ達セル健康體ノ者ハ其死亡ノ時百五十圓ヲ受取ルカタメ年々十圓ヲ支拂ヘハ可ナルカ如シ尙ホ之ニ保險者カ要スル費用其他ヲ加算シ且生命保險ニ付テハ年々受取リタル金額ニ利息ノ計算ヲ加ヘサル可ラス此外營業保險ニ在テハ營利ノ

目的ヲ満足セシムルカタメ保險者カ受クヘキ相當ノ報酬ヲ算入スヘキハ勿論ナリ

定額保險ニ在テハ危険ヲ共同ニスル方法ノミ備ハル以上ハ危険實現ノ際保險者ノ支拂フ可キ價額ニ付キ争ヲ生スルコトナシ唯果シテ危険カ實現シタルヤ否ヤノ事實問題ニ付テ争ヲ生スヘキノミ反之損害填補保險ニ在テハ危険ノ共同ノ外ニ損害ノ共同ナル觀念ヲ前提トスルモノナルヲ以テ危険カ實現シテ損害ヲ生シタルノ事實ヲ以テ満足スルコト能ハス更ニ其損害ノ額ヲ測定シテ保險者ノ支拂フヘキ額ヲ決定セサル可ラス例ヘハ火災保險ニ在テ或家屋カ類燒シタルトキ其燒失シタル部分カ幾何ノ價額ニ該當スルヤヲ鑑定人ヲシテ鑑定セシメサル可ラス是レ即チ損害共同ノ方法ト名ケラル、モ

ノニシテ特ニ注意スヘキ必要アリ

第四章 保險ノ歴史

保險ノ淵源ハ之レヲ探究スルニ付テ其自覺的實行ニ著眼スルト不自覺的實行

ニ著眼スルトヲ區別シテ論セサル可ラス即チ保險ノ不自覺的實行トシテ淵源ハ人類ノ共同生活カ始マリタル時ニ存スト謂フモ不可ナシ即チ共濟ノ主義是ナリ反之保險ノ自覺的實行ノ淵源ハ歐洲ノ中世地中海ノ沿岸都府ニ起リタル海上保險契約ニ在リト謂ハサル可ラス而シテ此海上保險契約ナルモノハ所謂冒險貸借契約ヨリ轉化シ來リタルモノナリ冒險貸借契約トハ船舶ノ發港ニ際シ金錢ノ貸借ヲ爲シ其借主タル船舶所有者ハ安全ニ歸港シタルトキ非常ニ高キ利息ヲ付シテ元金ヲ返還スルノ義務ヲ負ヒ貸主ハ之カタメ船舶ノ沈沒喪失等ノ場合ニ其損失ヲ負担スヘキ契約ナリ羅馬法典中ニモ此契約ヲ認メ學者ハ希臘フヒニシヤ時代ヨリ傳來シタルモノナリト論セリ

冒險貸借契約ヨリ海上保險契約ヲ生シタル年代ニ付キ學者ノ畧^ホ一致スル所ハ西曆一千四百二三十年頃ニシテ其後此海上保險ヲ摸範トシテ運送保險、生命保險、火災保險等相踵テ發達シ來レリ近世ニ至テハ國家カ或保險ヲ自營シ國民ニ向テ之ヲ強制スルニ至リ而シテ保險ノ沿革上注意スヘキコトハ保險ノ自覺的實行トシテ營業保險先ツ起リ相互保險ハ却テ後ニ至テ發達シタルコト是ナリ

第五章 保險ノ法源

保險ニ關スル重要ノ法規ハ左ノ如シ

- 一 商法々典
- 二 保險業法(明治三十三年法)
以上二者ハ相俟テ圓滿ナル適用ヲ見ルモノニシテ之ニヨリテ專ラ保險ニ關スル法律關係ヲ決定セラル、モノナリ
- 三 保險業法施行規則(明治三十三年農商務省令第五十八號)
之ニハ本土ニ行ハル、モノト臺灣ニ行ハル、モノトノ二アリ前者ハ農商務省令ニテ定メ後者ハ臺灣總督府令ニテ定メラレタリ
- 四 外國保險會社ニ關スル件(明治三十三年勅令第三百八十八號)
- 五 外國保險會社ニ關スル件(明治三十三年農商務省令第九十九號)
之ニモ内地ニ行ハル、モノト臺灣ニ行ハル、モノトノ二アリ前者ハ農商務省令ニテ定メ後者ハ臺灣總督府令ニテ定メラレタリ

第六章 保險ノ著書

一六

保險ニ關スル著書ハ我國ニ於ケルモノハ至テ尠ナク唯僅カニ左ニ揚クルニ三ノモノアルニ過キス

- 一 粟津法學士著保險法
- 二 和仁法學士著保險法
- 三 奧村理學士著保險通論
- 四 村瀬春雄著海上保險
- 五 獨逸人マイエツト氏著農業保險論及ヒ災害救濟論
- 六 設樂久氏日本生命保險業史
- 七 藤澤理學博士著生命保險論
- 八 菊池綾五郎氏譯ナサンウイレー氏原著理論實際生命保險論
- 九 粟津法學士譯スケウハイパーヴェン氏原著生死論
- 十 山口醫學士著生命保險診斷學

此外保險ニ關スル二三ノ參考スヘキ雜誌アリ

第二編 營業保險法論

保險ハ財産的危險ヲ共同ニスルノ目的ヲ有スル制度ニシテ之ヲ相互保險ト實業保險トニ分ツコトハ既ニ前編ニ於テ之ヲ述ヘタリ而シテ其營業保險トハ株式會社ヲ機關トセル保險團體ニ依ル保險ヲ謂フモノニシテ之ヲ二個ノ方面ヨリ觀察スルコトヲ得ヘシ即チ其一ハ其機關タル株式會社ニシテ其二ハ株式會社ト保險團體員トノ間ニ取結フ契約是ナリ隨テ營業保險ニ關スル法理ヲ論スルニ付テモ亦此二個ノ方面ヲ存スヘキコト勿論ナリ而シテ吾輩ハ是ヨリ以下營業保險法ヲ論スルニ付キ主トシテ第二ノ方面ヨリ觀察ヲ試ミント欲ス蓋本講義ノ本來ノ目的ハ商法ノ一部タル保險法ヲ講スルニ在リテ保險契約ヲ主眼ト爲サ、ル可カラサレハナリ故ニ本編ハ商法ニ規定シタル保險契約ノ本體トシ之ニ保險業法中株式會社ニ關スル規定ヲ加ヘテ營業保險ノ法理ヲ説明スルモノニシテ保險契約法編ト題スルモ亦不可ナキモノトス而シテ次編タルヘキ

相互保險法論ト相俟テ我邦ニ現存スル保險ノ法理ノ一般ヲ明ニスルモアナリ

一八

第一部 損害保險契約

總論

第一章 損害保險契約ノ概念

損害保險契約ハ當事者ノ一方カ財産的危險ノ共同ヲ自己ノ名ニ於テ實行スヘキコトヲ約シ他ノ一方カ之ニ對シ其報酬ヲ與フルコトヲ約スル契約ニシテ其危險共同ノ結果カ損害ノ填補ニ限ラル、モノナリ但我商法ハ此危險共同ノ結果タル損害填補ノ方面ヨリ立言シテ第三百八十四條ヲ設ケタレトモ其趣旨ハ全ク余ノ述ヘタル定義ト異ナルコトナシ唯商法ハ危險ヲ共同ニスル團體ナルモノヲ輕々ニ看過シタルニ反シ余ハ之ニ重キヲ措キタルノ差異アルニ過キス」損害保險契約ノ法律上ノ性質ニ付テハ古ヨリ種々ノ學說アリタレトモ其普通ノモノハ射倖契約說ナリトス我國ノ學者モ保險ヲ論スルニ付テハ損害保險契

約ヲ以テ射倖契約ノ一種ナリト説明セサル可ラスト思惟スレトモ余ハ此說ヲ全然排斥スル者ノ一人ナリ其之ヲ排斥スル理由ハ射倖契約ノ特質タル特定且偶然ノ事故ニ因リテ取引カ當事者一方ノ利益ト爲リ或ハ相手方ノ利益ト爲ルノ一事ヲ損害保險契約ニ付キ見出スコト能ハサルヲ以テナリ之ヲ詳言スレハ損害保險契約ニ在テハ其取結ノ時ニ在テモ危險實現ノタメ損害ノ填補ヲ爲ス時ニ在テモ當事者双方ノ利害ハ常ニ平均スルモノニシテ之ニ依リテ利益カ變動スルモノニ非ス保險者ハ豫メ統計ニ基キ保險技術上ノ計算ヲ爲シ自己ノ給付ト相手方ノ給付ト相平均セシムルモノナレハ損害填補ノ際ニ其契約ノミニ付キ觀察スレハ損失ト見ルコトヲ得レトモ固ヨリ其契約限リニテ計算スルモノニ非サルヲ以テ危險共同ノ團體全般ニ共同シテ何等損得ナシ若シ損得アリトセハ普通ノ賣買ニ於テモ其他ノ取引ニ於テモ見ルコトアルヘキ損失ト何等異ナル所ナキモノニシテ特ニ射倖的ノ損失ト謂フヘカラス損失ノ填補ヲ爲サスシテ已ム場合モ亦之ト同一ノ理由ニ依リ射倖的性質ヲ帶ヒスト結論シ得ルモノトス

損害保険契約ハ條件付契約ナリト説明スルハ普通ニ見ル所ナリ然レトモ此條件ナル語ハ民法々律行為ニ所謂條件トハ相異ナルモノト解釋スルニ非サレハ意味ヲ成サス何トナレハ保險契約ヲ以テ條件付ノ契約ナリトスル見解ニ從ヘハ其條件ナルモノハ所謂危險ニシテ危險ノ實現ハ即チ條件ノ成就ナリト爲スカ故ニ此危險ノ實現ハ若シ條件ナル語ヲ以テ法律行為ノ附款ナリト解スルニ於テハ全ク此場合ノ説明ヲ爲サス換言スレハ保險契約上ノ危險ハ契約ノ法定要件ナルヲ以テ當事者カ此法定要件ヲ充タスタメニ或事實ヲ危險トシテ指示シタルニ過キス要スルニ損害保險契約ハ契約取結ノ當時ヨリ完全ナル效力ヲ生スルモノニシテ條件トシテ指示セラレタル危險ノ實現ヲ待テ效力ヲ發生スルモノニ非サレハナリ

次ニ損害保險契約ハ保險者カ整然タル大規模ニ基テ爲ス所ノ契約ナリト説明スル者アリ此學說ハ保險契約ヲ以テ危險共同ノ團體ヲ前提トスル契約ナリト説明スルニ在ラハ當然言ヲ俟タサル所トシテ是認セサル可ラサレトモ若シ反之團體的ノ性質ヲ全ク否認スルニ在ラハ其根底ニ於テ尙ホ疑ヲ容ルヘキ餘地ヲ存スルモノナリ故ニ外國ニ於テハ此學說ハ未タ通説ト爲ラサレトモ我國ニ於テハ保險契約ヲ以テ相對的商行爲ノ一ト看做シ相互保險ニ非サル保險ハ必ラス營利保險ナルヲ以テ余ハ團體的性質ヲ保險契約ノ前提トシテ誤リナキモノト信ス隨テ此學說ハ當然言ヲ俟タサル所ニ屬ス

第二章 損害保險契約ノ要件

前章ニ於テ述ヘタル如ク損害保險契約ハ當事者ノ一方カ財產的危險ノ共同ヲ自己ノ名ニ於テ實行スルコトヲ約シ相手方カ之ニ對シテ報酬ヲ與フルコトヲ約スル契約ナレハ損害保險契約ハ左ノ五個ノ要件ヲ具備スルモノナリ即チ

- 第一 當事者(保險者ト保
險契約者ト保)
- 第二 財產的危險ノ共同(商法ニ所謂
危險ノ問題)
- 第三 危險ト損害トノ聯關(商法ニ所謂被保
險利益ノ問題)
- 第四 損害ノ填補(商法ニ所謂被保險者ヘ
支拂フヘキ金額ノ問題)
- 第五 報酬(即チ保
險料)

是ナリ以下之ヲ逐次説明スヘシ

二三

第一節 當事者

損害保険契約ノ當事者トシテハ一方ニ損害ノ填補ヲ約スル者アリ之ヲ保險者ト名ク又他方ニ損害ノ填補ヲ受クルカ爲メ之ニ對シテ報酬ヲ支拂フコトヲ約スル者アリ之ヲ保險契約者ト名ク然ルニ實際損害ノ填補ヲ受クルニ至ル者ハ普通保險契約者ナリト雖モ例外ノ場合トシテ第三者カ指定セラル、コトアルモノナリ此場合ニハ其指定セラレタル第三者ハ眞ニ危險ノ共同ニ參與シテ危險共同ノ團體ヲ組織スルモノナルカ故ニ之ニ對シテハ特別ノ名稱ヲ存セサル可ラス故ニ之ヲ被保險者ト名ク如斯保險契約者ト被保險者トカ別人ナル場合ヨリ推論シテ同一人ナル場合ニ於テモ尙ホ被保險者ナルモノヲ存シ唯タ同一人ニシテ二者ヲ兼ヌルモノト説明スルニ至レリ是レ即チ最近ノ法理ニシテ英佛ノ保險學者ハ尙ホ保險契約者ト被保險者トノ二個ノ觀念ヲ混同シ其用例正鵠ヲ缺クモノアリ然レトモ我商法ハ此區別ヲ明カニシタルヲ以テ解釋上少ナ

カラサル便利アリトス
被保險者ノ何タルコトハ前ニ述ヘタル所ノ如シ故ニ之カ説明ハ第二節財産的危險ノ共同ニ於テスルヲ正當トスレトモ便宜ノタメ本節ノ終リニ於テ説明セント欲ス

第一款 保險者

保險業法第二條ニ依レハ保險業ハ株式會社又ハ相互會社ニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ストスルヲ以テ茲ニ損害保險契約ノ當事者タル保險者トシテ説明スル所ノモノハ株式會社ニ限ルコト勿論ナリ左ニ損害保險株式會社ニ關スル保險業法ノ規定ノ大要ヲ説明スヘシ

第一 損害保險株式會社ノ目的

保險業法ノ規定ニ依レハ損害保險ト生命保險トハ之ヲ併セテ其目的ト爲スコトヲ得ス又保險會社ハ損害保險ヲ目的トスルト生命保險ヲ目的トスルトヲ問ハス他ノ事業ヲ兼ヌルコトヲ得サルモノトス(保險業法第三條、第四條)
此點ニ關シテ問題トナルヘキハ生命保險ハ定額保險ノ一種ナルヲ以テ定額

保險中生命保險ヲ除キタル殘部ハ之ヲ損害保險ノ目的トスルコトヲ得ルヤ否ヤ是ナリ我保險業法ノ解釋トシテハ生命保險ト性質ヲ同シフスル定額保險ハ之ヲ目的トスルコトヲ得サルモノト解セサルヘカラス

第二 損害保險株式會社ノ設立

損害保險株式會社ハ其設立發起ノ際ニ發起ノ認可ヲ主務官廳ニ申請シ設立ノ登記ヲ爲シタル後營業免許ノ申請ヲ爲サ、ル可ラス此點ニ於テ商法ノ規定ニ例外ヲ成セルモノト謂フヘシ營業免許アリタルトキハ本店ノ所在地ニ於テ登記ヲナシ茲ニ始メテ開業ヲナスコトヲ得ルニ至ル

第三 定款商號及ヒ資本

定款ニハ商法第二百十條ニ掲ケタル事項ノ外(一)保險ノ種類及ヒ營業ノ範圍竝ニ(二)設立費用消却ノ方法ヲ記載スルヲ必要トシ商號ニハ保險ノ種類ヲ加フルコトヲ必要トシ資本ハ十萬圓以上ナルコトヲ必要トス而シテ保險會社ノ資本ハ多々倍々大ナルコトヲ可トスルヲ以テ商法第二百十條ノ制限ヲ受テス株金全額ノ拂込前ト雖モ之ヲ増加スルコトヲ妨ケサルモノナリ(保險法第十條)

四條乃至第十六條及第二十條

第四 營業

損害保險株式會社ノ營業ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス隨テ當該官廳ハ何時ニテモ其事業ノ報告ヲ爲サシムルコトヲ得ヘク又保險業法ノ規定ニ從テ命令ヲ發スルコトヲ得ヘク又業務及ヒ財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得ヘク又業務若クハ財産ノ狀況ニ依リ營業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキハ營業ノ停止ヲ命シ又ハ期間ヲ定メテ業務執行ノ方法若クハ計算ノ基礎ヲ變更スヘキコトヲ命スルコトヲ得ルモノナリ若シ會社カ此等ノ命令ニ違反シタルトキハ當該官廳ハ其營業ノ停止ヲ命シ取締役ノ改撰ヲ命シ若クハ營業ノ免許ヲ取消スニトヲ得ルモノナリ而シテ營業ノ免許ヲ取消サレタル會社ハ之ニ因リテ解散スヘキハ當然ナリトス(保險法第九條乃至第十二條及第二十一條)

第五 計算

損害保險株式會社ハ其設立ノ費用及ヒ最初五年間ノ營業費ヲ十年ヲ超ヘサル期間内ニ於テ定款ノ定ムル所ニ從ヒ毎年一部ツ、消却スルコトヲ得ルモ

ノナレトモ若シ此消却ニシテ全額ニ達セサル場合ニハ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得サルモノトス(保險業法第第十九條)又毎年一定ノ時期ニ其商業帖簿ヲ閉鎖シテ計算ヲナシ農商務大臣ノ定メタル書式ニ從ヒ各種ノ事項ヲ主務官廳ニ報告スルコトヲ要シ且營業年度ノ終リニ於テ現存スル責任準備金ヲ計算シテ特ニ設ケタル帖簿ニ記入スルコトヲ必要トス

損害保險株式會社カ財産ヲ利用スル方法ニ付テハ概括的ノ制限ナシト雖モ左ノ制限ニ從フコトヲ要ス即チ(一)無擔保貸附ヲ爲スコト(二)同一人ニ貸附又ハ預金ヲ爲シ又ハ同一人ヲ保證人トシテ貸付ヲ爲スコト(三)同一會社ノ株券又ハ債權ヲ取得シ又ハ之ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲スコト(四)同一物件ヲ取得シ又ハ之ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲スコト等ノ各一ニ全財産ノ五分ノ一以上ヲ注入スルコトヲ得サルモノト定メタルコト是ナリ但(二)及(三)ニ掲ケタル方法ハ之ニ利用シタル金額ヲ通算スルモノト定メラレタリ(保險業法施行規則第九條)

損害保險株式會社ハ商法第百九十四條ニ規定シタル法定準備金ノ外所謂支拂準備金及責任準備金ナルモノヲ積立ツルコトヲ必要トス而テ支拂準備金

ナルモノヲ當該營業年度ニ於テ支拂ヲ爲スヘキコトヲ確定シ又ハ爲スヘキモノト認メタルニ拘ラス未タ之ヲ實行セサル場合ニ積立ツヘキ準備金ナリ又責任準備金ナルモノハ其算出ノ基礎カ營業免許ノ許否ニ付キ重大ナル關係ヲ有スルモノニシテ會社刀損害ノ填補トシテノ支拂ノ未タ決定セサル保險契約ニ對シテ負擔スル責任ノ程度ヲ示シ營業免許ノ後其基礎ヲ變更スルニハ主務官廳ノ認可ヲ必要トスルモノナリ(保險業法第五條及第八條並ニ同施行規則第十四條乃至第二十一條)

第六 合併

合併ハ普通ノ株式會社ノ合併ト大同小異ニシテ即チ商法ノ規定ニ從テ一般ノ債權者ニ合併ノ旨ヲ報告シ且知レタル債權者ニハ各別ニ之ヲ催告シ尙各被保險者ニ對シテハ財産目錄及貸借對照表ヲ送付シテ之カ催告ヲ爲サ、ル可ラス而シテ一般ノ債權者ニ異議アレハ商法ノ規定ニ依リ之ニ辨濟ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ合併ヲ爲スコト能ハサルモノナレトモ被保險者ノ異議ニ對シテハ其者ノ保險金額ノ合計カ會社ノ總保險金額ノ十分一以上ナルトキハ合併スルコトヲ得サレトモ若シ以下ナルトキハ其異議

ニ拘ラス合併ヲ爲シ之ヲ異議者ニ對抗スルコトヲ得ルモノトス但合併ノ決議カ效力ヲ生スルタメニハ主務官廳ノ許可ヲ得サル可ラス(保險業法第二十三條)併合ノ認可申請スル手續ハ保險業法二三二五條同施行規則二三條ニ詳ナレハ茲ニ説明セス

第七 解散及ヒ清算

解散ノ原因ニ付テハ前述ノ如ク一般ノ株式會社ニ對スル解散原因ノ外營業免許ノ取消ノ一ヲ加フ而シテ任意解散ノ場合ニ於テハ其認可ヲ主務官廳ニ申請スルヲ必要トス(保險業法第二十三條)

清算ハ一般ノ株式會社ノ清算ト殆ント異ル所ナシ唯僅ニ營業免許取消ノ場合ニ於ケル清算人ノ選任ニ付テハ必ラス利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ基キ裁判所之ヲ選任スヘキモノナルコト株主總會ノ決議免許ノ取消裁判所ノ命令又ハ株主カ七人未滿ト爲リタル事由ニ因リ解散シタル場合ニハ被保險者ニ付テ實現シタル危險ハ解散ノ時ヨリ一ヶ月以内ニ實現シタルモノニ限り悉ク填補ヲ爲スコトヲ要シ其以外ノモノニアリテハ未タ經過セサル保險期

間ニ對スル保險料ヲ拂戻スヘキモノトス(保險業法二三三、二四七、七七、七八條)

第八 保險營業ニ對スル罰則

是ハ保險業法第九十七條第九十八條ニ規定セラル、所ニシテ主務官廳ノ許可ヲ得スシテ營業ヲナスモノハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處シ又免許ヲ受ケテ保險營業ヲナス株式會社ノ行動ヲ特定ノ法規ニ反スル場合ニハ各其場合ヲ區別シ其取締役、監査役又ハ清算人等ヲ五圓以上千圓以下ノ過料ニ處スヘキモノトス

第二款 保險契約者

保險契約者ナルモノハ保險者ニ對シ契約取結ノ相手方ト爲ルモノニシテ人タルト法人タルトヲ問ハス自ラ被保險利益ヲ有スルト否トヲ論セサルモノナリ而シテ保險契約者カ自ラ被保險利益ヲ有スル場合ハ同時ニ被保險者タル資格ヲ有スルモノニ反シテ被保險利益ヲ有セサル場合ハ他ニ被保險利益ヲ有スル者ノ存在ヲ必要トスルコト勿論ニシテ之ヲ被保險者ト名ク但シ此場合ニ保險契約者ト被保險者トノ間ニ如何ナル關係ヲ存セサル可ラサルヤハ商法上並ニ

保險業法上定ムル所ナシ唯々商法第四百二條ニ於テ其契約ノ效力ニ付テ僅カニ規定ヲ設ケタルニ過キス右ニ此二場合ノ保險契約者ヲ區別シテ少シク説明スル所アルヘシ

第一 被保險利益ヲ有スル保險契約者

保險ニ關スル法理ノ未タ發達セサル時代ニ在テハ學者ハ常ニ此種ノ保險者ニ着眼スルモノニシテ却テ保險契約者ナル語ノ代リニ被保險者ナル語ヲ以テセリ現ニ英佛等ニ於テハ元來保險契約者ナル語ヲ存セスト謂フカ如キハ此適例ナリ而シテ今日發達セル保險法理ニ於テハ保險契約者ト被保險者トヲ區別スト雖モ此兩者ヲ同一人ニテ兼ヌル場合ニハ法律關係ハ極メテ簡單ニシテ特ニ本款ニ於テ説明スヘキ事項ナク次節以下損害保險契約ノ要件並ニ次章保險契約ノ取結ニ關スル法理ノ説明ヲ以テ足ルモノナリ

第二 被保險利益ヲ有セサル保險契約者

此場合ニ於ケル保險契約者ニ關スル説明ハ更ニニ區別セサル可ラス即チ其一ハ此種類ノ保險契約者カ取結フ損害保險契約ノ法律上ノ性質如何其二

ハ保險契約者ト被保險者トノ間ニ存スルコトアルヘキ法律關係ノ種類如何是ナリ而シテ以上両面ノ觀察ニ加フルニ此種ノ保險契約カ被保險者ニ對シテ如何ナル效果ヲ存スヘキヤノ問題ニ關スル研究ヲ以テシ茲ニ始メテ被保險利益ナキ保險契約者ノ法律上ノ性質ヲ明ニシタルモノト信ス左ニ逐次之ヲ説明スヘシ

(一) 此保險契約ノ性質

此點ニ關シテハ見解數多アレトモ之ヲ大別スレハ(第一)直接代理說(第二)間接代理說(第三)直接間接兩代理ノ折衷說(第四)第三者ノ爲ニスル契約說ト爲ス而シテ直接代理說ニヨレハ保險契約者カ被保險者ノ委託ヲ受タル場合ハ勿論委託ヲ受ケサル場合ニ於テモ契約ノ相手方ハ被保險者ニシテ保險契約者ハ單ニ其擔保ノ義務ノ履行トシテ保險料支拂ノ義務ヲ負擔スルニ至ルニ外ナラストイヒ間接代理說ノ主張スル所ニ依レハ保險契約者ハ一種ノ問屋取引ヲ爲スモノニシテ商法第四百一條ハ原則トシテ之ヲ認メ第四百二條ハ假令委任ヲ受ケストモ此問屋取引ヲ爲スコトヲ得ル旨ヲ間接

ニ認メタルモノト爲ス但此ノ二ヶ條裏面解釋トシテ被保險者ハ保險者ニ對シ直接ニ損害填補ノ請求權ヲ有スルモノト看做スヘキカ將タ亦タ保險契約者ヨリ損害填補ノ請求權ヲ移轉セラレテ初テ請求シ得ヘキモノト看做スヘキカハ見解ノ岐ル、所ナルヘシト雖モ今日ノ進歩シタル保險法理ハ前說ニ依ルノ外ナカルヘシ又直接間接兩代理ノ折衷說ハ獨逸ノエーレンベルヒ等ノ主張スル所ニシテ商法第四百一條ノ後段ニ依リ保險契約者カ保險者ニ對シテ保險料支拂ノ義務ヲ負擔スルハ間接代理ノ法理ニ基ク然レトモ第四百一條第四百二條ノ裏面解釋ト損害保險ノ性質トニ依リ結論セラルヘキ被保險者ノ損害填補請求權ハ直接代理ノ法理ニ基クモノナリト爲ス要スルニ他人ノタメニスル損害保險契約ハ保險契約者ヨリ觀察シテ間接代理タルト同時ニ直接代理タルモノト結論スルニ在ルカ如シ又タ第三者ノタメニスル契約ナリトノ說ハ第四百一條第四百二條ヲ以テ單ニ民法第五百三十七條ニ對スル例外的ノ規定ト看做スモノニシテ第四百一條ハ損害保險契約ノ性質上第三者ノ爲メニスル契約ト兩立スヘキヤ

否ヤノ疑ヲ決定シ第四百二條ハ損害保險契約ニ關シテハ第三者ノ權利ノ發生時期ニ例外ヲ爲スコトヲ認ムルト同時ニ委任ヲ受ケスシテ取結ヒタル場合ニハ其旨ヲ相手方ニ告ケサレハ契約ハ效力ヲ生セストノ例外ヲ定メタルモノト爲スカ如シ
以上各學說ヲ對照スルニ何レモ多少ノ欠點ヲ伴フコト疑ナシ何トナレハ直接代理說ノ如キモ委託ヲ受ケサル場合ニモ當然代理ノ效果ヲ生スルモノトシ尙保險料支拂ノ義務ヲ負ハシメタル點ヨリ直接代理ナリトイフハ正當ナル見解ニアラス又間接代理說ノ如キハ間接代理ノ性質ト氷炭相容レサル例外ヲ認メサルヲ得サルカ如キ又直接間接兩代理說ノ如キハ調和シ得ヘカラサル兩制度ヲ折衷セント試ムルモノニシテ他ニ斯カル折衷ノ實例ナキニモ拘ラス單ニ損害保險契約ニ付テノミ之ヲ唱フルハ其根據頗フル薄弱ナルカ如キ又第三者ノタメニスル契約ナリトノ說モ第四百一條ノ必要ナル所以ノ説明極メテ曖昧ナルヲ免レス且ツ他人ノ爲ニト謂ヒテ第三者ノ爲メニト謂ハス尙此契約ノ效力トシテ被保險者カ權利ヲ取得ス

ル時期ヲ直接ニ規定セサルヲ多少疑ヲ容ルヘキカ如キハ此見解ノ欠
 點ト謂ハサル可ラス而シテ此等ノ欠點中最モ法理上ノ差支ヲ生スル程度
 ノ輕微ナルモノヲ求ムレハ最後ノ說即チ第三者ノ爲ニスル契約ナリトハ
 說ト謂フヲ得ヘシ故ニ吾輩ハ此學說ヲ採用セントスルモノナリ但此等四
 說ノ外尙ホ二三ノ見解ナキニ非スト雖モ要スルニ我商法ノ解釋トシテ採
 用シ得ヘカラサルコト疑ナキヲ以テ茲ニ之ヲ述ヘス

此契約ノ性質カ果シテ第三者ノ爲ニスル契約ナリトスレハ被保險者カ
 此契約ニヨリテ享受スヘキ法律上ノ效果如何ヲ研究スルニ商法ノ規定ニ
 ヨレハ被保險者ハ保險者ニ對シ直接ニ損害填補ノ請求權ヲ取得スルモノ
 ナルコト論ヲ俟タス而シテ此請求權ハ前ニモ述ヘタル如ク契約取結ト同
 時ニ發生スルヲ以テ原則トシ否ラサレハ其契約ハ無効ナリト解釋セサル
 可ラス何トナレハ委任ヲ受ケスシテ他人ノタメニ契約ヲ爲シタル場合ト
 雖モ其旨ヲ保險者ニ告クルニ於テハ其被保險者タル他人ハ當然契約上ノ
 利益ヲ享受スルコト、爲リ特ニ享受ノ意思表示ヲ爲スコトヲ要セス隨テ

其損害填補ノ請求權ハ利益享受ノ意思表示ナクシテ發生スヘキモノト解
 スルノ外ナシ況ンヤ委任ヲ受ケテ他人ノタメニ契約ヲ爲シタル場合ニハ
 法文上何等明示スル所ナシト雖モ利益享受ノ意思表示ナクシテ直ニ損害
 填補ノ請求權ヲ發生スヘキコト疑ヲ容レサルヘシ但茲ニ所謂委任ナル語
 ハ委任契約ト解スヘキカ將タ亦タ代理權ノ授與ト解スヘキカハ多少疑問
 ニシテ若シ代理權ノ授與ト解スルニ於テハ上來説明シタル所ハ悉ク正鵠
 ヲ得サルコト、爲ルヘキモ吾輩ハ之ヲ委任契約ト解シテ誤リナキモノト
 信ス

(二) 保險契約者ト被保險者トノ間ニ存スル法律關係

前ニ述ヘタル如ク保險契約者ハ被保險者ヨリ特ニ委任ヲ受ケタル場合ト
 受ケサル場合トアリ隨テ委任ヲ受ケタル場合ハ委任契約上ノ法律關係ヲ
 其間ニ存スヘク之ニ反シテ委任ヲ受ケサル場合ハ兩者間ニ如何ナル法律
 關係ヲ存スルヤハ全ク事實問題ニシテ法律上特ニ定マリタル所ナシ而シ
 テ其最モ普通ナル場合ヲ想像スレハ問屋カ其引受ケタル商品ニ付キ特ニ

委任ナキニモ拘ラス損害保険契約ヲ取結フカ如キ、運送業者若クハ運送取扱人カ特ニ委任ナキニモ拘ラス運送品ヲ保險ニ付スルカ如キ、倉庫營業者カ特ニ委任ナキニ受寄物ヲ保險ニ付スルカ如キ是レナリ此場合ニハ事務管理トシテ取扱フヘキコト勿論ナレトモ尙ホ何等ノ法律關係ヲ存セザルニモ拘ラス他人ノ爲ニ損害保險契約ヲ取結フコトハ弊害アリテ實益ナキカ如ク考ヘラルレトモ保險者カ之ヲ知ル以上ハ大ナル弊害ナキモノトシテ商法上有效ナリト謂ハサル可ラス(第四百二條)

第二節 危險

危險トハ被保險利益ヲ減少シ又ハ消滅セシム可キ事實ノ假想ニシテ統計上其到來スルコトノ確カラシサヲ計算(Wahrscheinlichkeitsrechnung)シ得ルモノヲ謂フ但被保險利益ナルモノハ損害保險契約ノ基礎タルヘキ財産上ノ利益ニシテ其説明ハ次節ニ譲ル

危險ハ或事實ノ假想ナルコト民法其他ノ法令ニ於テモ此用例少ナカラス而シ

テ其事實カ假想ノ狀態ヲ脱シテ實現シ初メタル以上ハ即チ損害トシテノ觀念ニ移リタルモノニシテ最早之ヲ危險ト稱スヘカラス例ヘハ家屋ニ付キ火災發生シ未タ燒失スルニ至ラスト雖モ既ニ危險ノ問題ハ過キ去リ損害ノ問題ト爲リタルモノナリ但危險ハ一タヒ實現シタル爲メ將來再ヒ實現ノ機會ヲ失フモノニ限ラス苟クモ被保險利益カ殘存スル以上ニ之ニ對スル危險ハ依然トシテ存在スルモノト謂ハサル可ラス

商法第三百八十四條ニ依レハ危險ハ偶然ナル一定ノ事故ニ外ナラス而シテ之ヲ分拆スレハ三ト爲ル即チ或事故タルコト、一定ノ事故タルコト及ヒ偶然ノ事故タルコト是ナリ尙ホ此事故ヲ一定スルコトハ當事者間ノ約定ニ係リ事故ノ偶然ナルコトハ損害保險契約ノ法定要件タリ而シテ當事者カ危險タルヘキ事故ヲ一定スルニ付キ遵奉セサル可ラサル自然的及ヒ法律的ノ限界アリ左ニ損害保險契約上ノ危險ノ有スヘキ性質ヲ保險技術并ニ商法上ヨリ説明スヘシ

第一 危險ハ其確カラシサカ兩極端ニ存スルトキハ保險契約上ノ危險タル能

ハス

商法第三條百八十四條損害保險契約ノ定義ニ依レハ危險トハ偶然ナル一定ノ事故ノ豫想ニシテ第三百九十七條ニ於テハ契約當事者ノ一方又ハ被保險者カ其ノ事故ノ生セサルコト又ハ既ニ生シタルコトヲ契約當時知ルニ於テハ其契約ハ無効ナリト規定セルカ故ニ損害保險契約上ノ危險タルニハ其確カラシサカ兩極端ノ何レニモ存在セザルコトヲ必要トス換言スレハ其實現スヘキコト又ハ其實現セサルヘキコトノ確定シタルモノハ損害保險契約上ノ危險タルコト能ハサルト同時ニ殆ント兩極端ニ近キ場合モ亦事實上保險契約上ノ危險タルヲ得サルモノトス但其確カラシサハ兩極端ノ何レニ比較的ニ近キモノヲ以テ損害保險契約上ノ危險ト爲スヘキヤト問ヘハ比較的消極ニ近キモノナリト答フルヲ正當トス何トナレハ危險ノ確カラシサカ百分ノ百ナルニ於テハ勿論假令之ニ近キモノトスルモ保險契約上ノ實益殆ント之レナカル可シ反之其確カラシサカ百分ノ零ナルトキ若クハ殆ント之ニ近キトキハ少ナクトモ保險ノ必要ヲ感セスト雖モ例ヘハ百分ノ二若クハ三或ハ百分ノ五若クハ十ノ如キ程度ニ在ルトキハ保險金額百圓ニ付キ二圓ヨリ五

十錢迄ノ間ニ於テ保險料ヲ支拂ヘハ足ルヲ以テ此種ノ危險ニ付キ多クハ保險契約ヲ取結フモノトス而シテ概括的ニ確カラシサノ程度ハ何程タルヲ要スルヤヲ抽象的ニ言明スルコトハ殆ント不能ニシテ其危險ノ種類及ヒ諸般ノ事情ニ因リテ判斷スヘキ問題ナリトス
以上述フルカ如ク既ニ實現シタルカ又ハ實現スヘキコトノ確定シタルモノハ之ヲ保險契約上ノ危險トナスコト能ハストイヘトモ當事者カ主觀的ニ未タ其事實ヲ了知セザル場合ニ於テハ尙客觀的ニ確定ノモノト雖モ保險契約上ノ危險タルコトヲ妨ケザルモノトス(商三百九十七條)

第二 事物ノ性質上生スヘキ損害ノ程度カ所謂自然的消耗ト稱セラル、場合ハ危險タルコト能ハス

自然的消耗トハ危險實現ノ程度カ之ヲ個々ノ場合ニ割充ツレハ比較的低キニモ拘ラス殆ト絶ヘス實現スルモノニシテ其割合ハ之ヲ算定スルコト能ハサルモ長年月ノ終リニハ蓄積シテ著シキ損害ト爲ルモノナリ此種類ノ危險ハ事物自然ノ性質上存スルモノニシテ其確カラシサノ程度ヨリ論スレハ殆

ント百分ノ百ニ近ク前述ノ理由ニ從フモ保險契約上ノ危險タルコト能ハサルモノナリ(商法第三百九十六條)

第三 保險ノ目的ノ性質若クハ瑕疵タル危險ハ保險契約上ノ危險タルコト能ハス此コトハ第一及ヒ第二ニ説明シタル所ヲ参照セハ自ラ明瞭スヘシ(商法第三百九十六條)

第四 危險實現ノ結果カ非常ニ大ナル場合ニハ保險契約上ノ危險タルコト能ハス

抑モ或事實ノ性質上其發生ノ程度ハ極メテ低キニモ拘ラス一タヒ發生スレハ其結果ハ廣ク世上一般ノ財産ニ及フモノニシテ例ヘハ戰爭其他ノ變亂ノ如キ地震ノ如キ此等ノ事實ハ如何ニ大規模大資本ヲ以テ保險事業ヲ經營スルモ其生シタル損害ノ程度并ニ範圍ノ極メテ絶大ナルヲ以テ之ヲ填補スルコト到底不可能ナルカ故ニ保險契約上ノ危險タルコト能ハス但戰爭其他ノ變亂ニ付テハ特約ヲ以テ其範圍ヲ限定シ保險契約上ノ危險タラシムルコト敢テ不能ニ非サルヲ以テ此點ニ付キ商法第三百九十五條ノ規定アル所以ナリ

リ而シテ地震ニ付テハ舊商法中ニハ規定アリタレトモ現行商法ハ之ヲ個々ノ契約ニ讓ルコト、爲シ特ニ之カ規定ヲ設クルコトナシ但火災保險其他ノ損害保險ニ於ケル保險約款ヲ見ルニ一般ニ地震ヨリ生シタル損害ハ之ヲ填補セサルコトヲ明言セリ

第五 危險ノ實現カ保險契約者又ハ被保險者ノ要意若クハ重大ナル過失ニ基ケル場合ハ保險契約上ノ危險タルコト能ハス是レ即チ保險技術上ノ必要ニ基ク制限ニシテ若シ保險契約者又ハ被保險者ノ要意若クハ重大ナル過失ノ場合ヲモ包含セシムルニ於テハ到底危險ヲ實際的ニ測定スルコト能ハス隨テ保險者ト保險契約者トノ給付ヲ平均セシムル途ナケレハナリ(商法第三百九十六條)

第六 危險トシテ假想セラル、事實カ刑罰法上ノ制裁タル場合ニハ保險契約上ノ危險タルコト能ハス是レ公ノ秩序ヲ維持スルタメ當然ノコトニシテ特ニ説明ヲ要セサル所ナリ商法第四百三十一條ヲ以テ生命保險ニ關シ此コトヲ規定シタルハ單ニ之ヲ生命保險契約上ノ危險ノミニ對スル制限ト爲スノ意味ニ非サルナリ

第七 危險ヲ共同ニシ損害ヲ分擔スル結果カ公ノ秩序善良ノ風俗ニ反スルニ

至ル場合ハ保險契約上ノ危險タル事能ハス是レ第五第六ニ説明シタル所ニ依リ自ラ明白ナルヘキヲ以テ茲ニ贅セス

危險ノ性質ハ以上述べルカ如シ而シテ其確カラシサハ保險者カ對數觀察上測定シタル上尙ホ各被保險利益ノ體様及ヒ其性質ニ付テ具體的ニ測定スヘキモノナリ然ルニ此後者即チ具體的ノ測定ハ保險契約者又ハ被保險者ノ知ル所ト離レテハ全ク之ヲ爲シ能ハサルモノナリ何トナレハ保險者ノ觀察シ得ル所ハ單ニ其被保險利益ノ客體ノ位置外形等ニ過キサレハナリ故ニ保險契約取結ノ際ニハ保險契約者ヨリ其危險ノ慥カラシサニ影響スヘキ重要ナル事實ヲ保險者ニ通告スヘキモノト規定シ以テ危險ノ具體的測定ニ誤リナカラシムコトヲ期シタリ(商法第三百九十八條)而シテ危險ノ慥カラシサハ常ニ變化シテ止マサルモノナルカ故ニ契約取結ノ際ニ於ケル通告ノミニテハ尙保險契約者ノ給付ト保險者ノ給付トヲ理想上平均セシムルコト能ハサルヲ以テ保險期間中ト雖モ危險カ著シク變更又ハ増加シタルトキハ之ヲ知リタル保險契約者又ハ被保險者ハ遲滯

ナク保險者ニ之ヲ通告スヘキモノトセリ(商法第四十一條)此保險契約者又ハ被保險者ノ義務ヲ開陳責任一名告知義務ト稱ス

開陳責任ニ關シテハ數多ノ疑問アリ即チ其一ハ何故ニ契約取結ノ際ニ於ケル開陳責任ノ負擔者ヲ保險契約者ニ限リタルヤノ問題ニシテ被保險者ノ委任ヲ受ケス若クハ委任ヲ受ケタルニモ拘ラス代理權ノ授與ナクシテ保險者ト契約ヲ取結フ場合ニ付キ多少欠點アルカ如キ感アリ然レトモ翻テ考フルニ保險契約者ハ保險者ニ對シ保險料支拂ノ義務ヲ負擔スルモノナルカ故ニ其知リタル所若クハ知ラサル可ラサル所ヲ保險者ニ對シテ開陳スレハ足ルモノニシテ之レ以上ヲ求ムルハ却テ契約ノ有效ニ成立スルコトヲ不當ニ制限スル恐アルヲ以テ被保險者ヲ此場合ノ開陳責任ノ當事者ニ加ヘサリシモノナリ
其二ハ危險ノ變更増加ニ付キ開陳責任ヲ存スルカ故ニ危險ノ減少ニ付テハ如何ニ之ヲ取扱フヘキヤノ問題ナリ危險減少ノ場合ハ保險契約者ト保險者トノ給付ヲ不平均ナラシムルコトハ危險ノ増加變更ノ場合ニ等シト雖モ保險契約者ノ負擔スル給付ハ極メテ少額ニシテ保險者ノ負擔スル給付ハ之ニ比シ非常

ニ多額ナルノ差異アルノミナラス其ノ危険ノ減少シタル事實ヲ知ルヘキモノハ保險契約者又ハ被保險者ニシテ之ニ因リ自己カ不利益ヲ被フルモノナレハ自ラ進ンテ其事實ヲ主張シ給付ノ減少ヲ請求スルコトアルヘク特ニ之カ規定ヲ設ク可キ餘地ヲ存セス商法第三百九十二條及ヒ第四百條ハ此減少ノ著シキ場合若クハ特殊ノ場合ヲ規定シタルモノニシテ其著シク減少シタル場合ト雖モ保險契約者ハ保險金額及ヒ保險料ノ減額ヲ請求スルコトヲ得サルヲ以テ原則トシ唯タ保險價額カ減少シタルタメ危険ノ分量カ著シク減少シタル場合ノミ此請求ヲ爲スコトヲ得ルモノト定メタリ又特別ノ危険ヲ斟酌シテ保險料ノ額ヲ定メタル場合ニハ其危険ノ消滅シタルトキニ限り保險者ハ保險料ノ減額ヲ請求スルヲ得ルモノト定メタリ蓋シ保險料ノ減額ハ危険減少ノ割合ニ應ジ過去及ヒ將來ニ及フヲ以テ純理上正當ノコト、スレトモ保險契約者カ減額ノ請求ヲ爲サシテ經過シタルハ多少自己ニ過失ナキニ非サルヲ以テ單ニ將來ニ向テノミ減額ノ效力アルモノト規定シタリ尙ホ注意スヘキハ保險料ノ計算期間内ニ在テハ保險料ハ不可分ナルカ故ニ假リニ其期間ヲ一年ト看做シ三ヶ

年ニ亘ル契約アリトシ二年目ノ半ハニ於テ此減額ノ請求ヲ爲スモ其效力ハ三年目ノ保險料ニ付テノミ生スヘキコト是ナリ
 疑問ノ三ハ所謂開陳責任ト名クルモノ、内ニハ危険カ實現シテ損害ト化シタル場合ニ保險契約者又ハ被保險者ヨリ其損害ヲ知リタル後遲滯ナク保險者ニ之ヲ通告スヘキ義務ヲモ加フルヲ常トスレトモ此義務ハ之ヲ損害填補ノ問題ニ附屬スルモノトシテ茲ニ論セサルヲ正當トスルカ如シ(第四百十二條)
 左ニ契約取結ノ際及ヒ保險期間中ニ於ケル開陳責任ニ付テ逐一説明スヘシ
 第一 契約取結ノ際ニ於ケル開陳責任

契約取結ノ際ニ於ケル開陳責任ニ付テハ種々ノ學說ヲ存ス例ヘハ之ヲ双務契約ノ性質ニ基クモノト爲シ或ハ之ヲ射伴契約ノ特質ニ基クモノト爲シ或ハ之ヲ警察上ノ目的ニ出ツルモノト爲シ或ハ之ヲ最大善意ヲ要スル契約ニ固有ナルモノト爲シ其他種々ノ見解アレトモ吾輩ハ之ヲ以テ保險契約ノ技術上ノ必要ニ基クモノト信ス何トナレハ保險ハ當事者ノ双方ノ給付カ理想上平均スルコトヲ必要トスルモノニシテ此必要ヲ充タスタメニハ危険ニ影

響ヲ及ホス可キ重要ナル事實ヲ保險契約者ヨリ開陳スルコト必要ナレハナ
 リ保險契約取結ノ際ニ於ケル開陳責任ハ商法第三百九十八條ニ之ヲ規定ス
 即チ其責任ノ主體ハ保險契約者ニシテ責任ノ目的ハ危險ニ影響ヲ及ホス可
 キ重要ナル事實ナリ而シテ此責任ノ違反ハ保險者カ其事實ヲ知り若クハ知
 ルコトヲ得ヘカリシ場合ヲ除キ保險契約者カ惡意若クハ重過失ニ因リ重要
 ナル事實ヲ告ケス若クハ重要ナル事項ニ付キ不實ノ事ヲ告ケタル場合ナリ
 尙ホ此責任違反ニ對スル制裁ハ其契約ヲ無効ト爲スニ在リトス
 保險契約取結ノ際ニ於ケル開陳責任ニ關スル各種ノ問題ヲ左ニ逐次説明ス
 可シ

(一) 重要ナル事實又ハ事項

如何ナル事實又ハ事項ハ果シテ茲ニ所謂重要ナル事實又ハ事項ナルヤハ
 全ク事實問題ニシテ保險ノ目的被保險者ノ狀態危險ノ性質其他萬般ノ事
 情ニ因リ決定スヘキモノナリ而シテ當事者間ニ特約アル場合ニ付テハ其
 特約ヲ以テ第一ノ標準ト爲ス可キ也ト疑ヒナシ此特約ノ定メ方ニハ二様

アリテ其一ハ重要ナル事實事項ヲ例示的ニ掲クルモノニシテ其二ハ之ヲ
 制限的ニ掲ケ其以外ニ重要ナル事實事項ヲ認メサルモノ是ナリ後者ハ事
 實問題トシテ争ヲ生スルコト少ナシト雖モ前者ハ事實問題トシテ争ヲ生
 スルコト特約ナキ場合ト異ナラス今保險契約取結ノ實際ヲ看ルニ保險者
 ハ申込證書ナルモノ、用紙ヲ作成シ之ニ重要ナル事實事項ヲ掲ケ保險契
 約者ヲシテ逐一之ニ答ヘシム而シテ保險契約者ノ答ハ積極ナルト消極ナ
 ルトヲ問ハス之ヲ重要ナル事實事項トシテ特約シタルモノト看做シ得可
 シト雖モ若シ保險契約者カ何等答フル所ナク保險者モ之ヲ輕々ニ看過シ
 タルトキハ重要ナル事實事項トシテノ特約ナキニ止マルモノナルカ將タ
 亦タ重要ナル事實事項ニ非サル旨ヲ默示的ニ特約シタルモノト看做スヘ
 キカ若クハ單ニ保險契約者カ其事實事項ニ付キ知識ナキ旨ヲ示スニ止マ
 ルモノト解スヘキカ甚タ疑ナキ能ハス吾輩ハ特約ナキモノト看做ス第一
 ノ見解ヲ正當ナルモノト考フ但之レカタメニ保險者カ申込證書中ニ掲ケ
 サリシ事實事項ニシテ重要ナルモノアリヤ否ヤハ何等解決セラル、所ナ

(二) 不實ノ陳述又ハ眞實ノ沈黙

不實ノ陳述トハ或事實カ存在スルニモ拘ラス全ク之ヲ否認スル場合ト、或事實カ存在セサルニモ拘ラス之ヲ存在スルモノトシテ表示スル場合ト、事實ノ存否ニ付テハ眞實ニ反スルコトナキモ其事實ノ存否ヲ形容スルニ付テ用ヒタル表示ノ方法カ眞實ニ反スル場合トノ三者何レカ其一ニ在ルカ如シ而シテ第三ノ場合ハ全ク程度ノ問題ニシテ開陳責任ノ違反タルニ付テハ眞實ニ反スル表示ノタメ危險ノ測定ニ誤解ヲ生セシメタルヤ否ヤヲ以テ區別ノ標準ト爲サ、ル可ラス

事實ノ沈黙トハ或事實ノ存在又ハ不存在若クハ事實ノ眞想ヲ故意ニ表示セサルモノニシテ事實ノ眞想ヲ表示セサル場合ハ是レ亦タ程度問題ニ屬シ危險ノ測定ニ誤解ヲ生セシメタルヤ否ヤヲ以テ區別ノ標準ト爲スモノナリ

(三) 保險者カ知り又ハ知ルコトヲ得ヘカリシ事實

商法第三百九十八條ノ本文ニ於テハ或ハ事實ト云ヒ或ハ事項ト云フニ拘ラス但書ニ於テハ保險者カ其事實ヲ知り又ハ知ルコトヲ得ヘカリシ事實トアリ其意義如何曰ク但書ニ於テハ或特定ノ事項ニ關シテ保險者ノ知識ヲ標準トシタルカタメ事實ト謂ヒタルモノニシテ積極的ノ事實ト消極的ノ事實トヲ併セ謂ヒ表ハシタルモノナリ而シテ是等ヲ開陳責任ノ目的中ヨリ除外シ保險契約者ヲシテ開陳責任ノ違反ヲ免レシメタル所以ハ即チ保險者自身ノ不注意ノタメ保險ノ測定ヲ誤リタルコトヲ理由トシテ契約ノ無効ヲ來シ相手方ハ保險者ノ知識ニ依頼シテ開陳責任ヲ實行セサリシニ拘ラス其契約カ無効ニ歸スルハ公平ヲ保ツ所以ニ非サレハナリ

第二 保險期間中ニ於ケル開陳責任

保險期間中危險ノ状態ハ種々ニ變化シテ止マサル可シ而シテ其變化ガ危険ノ性質ヲ變更シ若クハ危険ノ程度ヲ増加シ其變更若クハ増加カ著シキ程度ニ在ルトキハ當事者双方ノ給付ハ慥ラシサ的ニ全ク平均ヲ失フモノト謂ハサル可ラス故ニ此場合ニ於テモ開陳責任ノ問題ヲ生ス但此場合ノ開陳責任

ノ基礎ハ保險技術上ノ要件ヲ充タスニ過キサレト疑ナシトス
 保險期間中ノ開陳責任ハ第四百十一條ニ之ヲ規定セリ即チ之カ責任ノ主體
 ハ保險契約者及ヒ被保險者ニシテ責任ノ目的ハ保險契約者又ハ被保險者ノ
 責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ著シク變更又ハ増加シタル危險ニ限ル又
 此責任ノ違反ハ保險契約者若クハ被保險者カ危險ノ著シク變更又ハ増加シ
 タルコトヲ知リタル時之ヲ遲滯ナク保險者又ハ其代理人ニ通知スルコトヲ
 怠リタル場合ニ存スルモノニシテ之カ制裁ハ保險者ニ於テ危險ノ變更又ハ
 増加ノ時ヨリ保險契約カ其效力ヲ失ヒタルモノト看做スコトヲ得ルニ在リ
 トス

尙ホ保險期間中ノ開陳責任ニ關シ二三ノ注意スヘキ點アリ即チ其一ハ危險
 カ著シク變更又ハ増加スト謂ヘルハ如何ナル意味ナルヤノ問題ニシテ例ヘ
 ハ火災保險ニ付シタル家屋ノ隣ニ鍛冶屋湯屋等ノ火ヲ取扱フヘキ營業者カ
 來リ同居シタル場合ノ如キハ危險ノ變更又ハ増加ナルコト明ナレトモ隣家
 ニ於テ既ニ火ヲ失シテ被保險利益ノ目的物タル家屋カ未タ燃燒セサルモ將

サニ火災ニ罹ラントスル場合ノ如キハ危險ノ著シク變更増加ニ非サルカノ
 疑アリ然レトモ是等ハ危險ノ變更増加ト稱ス可キモノニ非スシテ危險ノ實
 現カ未タ損害ヲ惹起セサル場合ニ外ナラス此危險ノ變更増加ト危險ノ實現
 トノ間ニ區別ヲ爲スコトハ實際上必要ナリト雖モ場合ニ依リ二者ヲ區別ス
 ルコト頗ル困難ナリトス

其二ハ保險期間中ノ開陳責任ヲ實行シテ保險者ニ通知シタルトキハ如何ト
 謂フニ固ヨリ開陳責任違反ノ制裁ナキヤ言フ俟タス而シテ其效果ハ保險者
 カ此通知ヲ受ケタルニ拘ラス遲滯ナク保險契約ノ解除ヲ爲サ、ルトキハ解
 除權ヲ失ヒタルモノト認メラル、コト是ナリ蓋シ保險契約者又ハ被保險者
 ノ責ニ歸ス可ラサル事由ニ因リテ危險カ著シク變更増加スルトキハ保險者
 ハ契約解除權ヲ取得スルモノニシテ隨テ此解除權ノ速カニ實行セシムル必
 要アレハナリ而シテ此解除權行使ノ效力ハ將來ニ向テノミ之ヲ生スルモノ
 ナルコトハ第四百十一條ニ規定セル所ナリ尙ホ開陳責任ノ實行ナキニ拘ラ
 ス保險者カ既ニ保險ノ變更増加ヲ知リタルトキハ遲滯ナク解除權ヲ行使ス

ルニ非サシハ開陳責任ノ違反ヲ理由トシテ保險契約ヲ解除スルコト能ハサルモノトス

第三節 被保險利益

被保險利益ナルモノハ保險契約取結ノ際被保險者カ有スル財産的利害關係ヲ利益ノ方面ヨリ觀察シタルモノニシテ危險カ實現シタルトキハ其利益ヲ減少又ハ消滅シ財産的損害ヲ惹起スルモノヲ謂フ商法第三百八十五條乃至第三百八十七條等ニ於テハ保險契約ノ目的ナル語ヲ存ス是レ即チ被保險利益ヲ指スモノニシテ殊ニ第三百八十五條ニ金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益云々ト謂ヘルハ被保險利益ノ性質ヲ示シタルニ外ナラス但商法ノ他ノ規定ニ於テ保險ノ目的ナル語ハ被保險利益ヲ或體様ニ付テ觀察シタルモノニ外ナラス例ヘハ火災保險ニ於ケル保險ノ目的ハ家屋又ハ物品ニシテ其家屋又ハ物品ハ被保險利益カ所有權トシテノ體様ニ於テ客體ト爲スモノニ外ナラス換言スレハ家屋又ハ物品ノ上ニ存スル所有權ニ付キ被保險者カ被保險利益ヲ有スルカタメ此家

屋又ハ物品ヲ火災保險ニ付スルモノナリ
被保險利益ハ其體様並ニ客體ノ點ヨリ觀察シテ種々ノ問題ヲ惹起ス即チ體様トシテハ或ハ所有權或ハ債權或ハ義務トシテ表ハルハモノニシテ例ヘハ家屋テ火災保險ニ付スル場合ニ其被保險利益ノ體様ハ家屋ノ所有權タリ又有價證券ヲ信用保險ニ付スル場合ニ於テハ被保險利益ノ體様ハ債權タルカ如ク又運送者カ其引受タル荷物ニ付キ運送保險ヲ付スル場合ハ被保險利益ノ體様ハ荷物滅失ノ場合ニ負擔スヘキ賠償義務タルカ如シ但被保險利益ノ體様タル可キモノハ種々アレトモ財産的ノ權利若クハ義務ノ範圍ヲ出ツルコトナシト解スルヲ常トス隨テ希望上ノ利益愛情上ノ利益等ノ如キハ被保險利益タルコト能ハサルハ自ラ明カナル可シ
次キニ被保險利益ノ客體ハ觀念ニ於テハ明カニ被保險利益ノ體様ト區別シ得ラル可キモノニシテ例ヘハ家屋ヲ火災保險ニ付スル場合ニ於テ被保險利益ノ客體ハ其家屋ナルニ被保險利益ノ體様ハ家屋ノ上ニ存スル所有權ナルカ如シ然レトモ債權ノ保險若クハ財産的義務ヲ被保險利益ノ體様トスルモノニ在テ

ハ特ニ被保險利益ノ客體トシテ指示スヘキモノナシ
 被保險利益ハ金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ價額ヲ有スヘキモノニシテ之ヲ保險
 價額ト稱ス而シテ此價額ヲ定ムルニ付テハ二種ノ標準アリ其一ハ主觀的標準
 ト名クルモノニシテ當事者ノ意思ニ因リ價額ヲ定ムルモノナリ其二ハ客觀的
 標準ト名クルモノニシテ當事者ノ意思如何ニ拘ラス取引所ノ公定相場又ハ交
 換價格鑑定人ノ評價等ニ依リ其價額ヲ定ムルモノニシテ爭アルトキハ裁判所
 判定ニ一任スルノ外ナキナリ前者ヲ主觀的價額ト稱シ後者ヲ客觀的價額ト稱
 ス而シテ契約上特ニ主觀的價額ヲ定メタル場合ニハ之ニ從フヘキハ勿論主觀
 的價額ノ定メ方カ著シク客觀的價額ニ超過スル場合ニハ多少之ヲ制限スルコ
 トナキニ非スト雖モ我國ニ於テハ主トシテ此問題ヲ保險者ノ自由ニ一任シ唯
 タ保險價額カ著シク過當ナルコトヲ保險者カ證明シタルトキハ其填補額ノ減
 少ヲ請求シ得ルモノト規定シタルニ過キス(第三百九十四條)
 或財産的利益ニ關シ保險契約カ成立スル場合ヲ二個ニ區別スルコトヲ得可シ
 其一ハ唯一ノ保險契約カ成立スル場合ニシテ其二ハ數多ノ保險契約カ成立ス

ル場合ナリ而シテ損害保險契約ノ根本的原則トシテ契約ノ數カ唯一ナルト數
 多ナルトヲ問ハス同一ノ財産的利益ニ付キ其價額以上ニ契約ヲ取結ソコト能
 ハサルモノナリ例ヘハ唯一ノ保險契約アル場合ニ保險金額カ被保險利益ノ價
 額ニ超過スルトキハ其超過シタル部分ニ付テハ保險契約ハ無効タルヘキモノ
 ニシテ又數多ノ保險契約アル場合ニ既ニ保險價額ノ全部ヲ保險ニ付シタル後
 ニ於テ更ニ取結フ保險契約ハ其效力ヲ生セサルモノトス但後ノ場合ニ付テハ
 三個ノ例外アリ即チ其一ハ前ノ保險者ニ對スル權利ヲ後ノ保險者ニ讓渡スコ
 トヲ約シタルトキ其二ハ前ノ保險者ニ對スル權利ノ全部又ハ一分ヲ拋棄スル
 コトヲ後ノ保險者ニ約シタルトキ其三ハ前ノ保險者カ損害ノ填補ヲ爲サ、ル
 コトヲ條件トシタルトキ是ナリ學者或ハ此場合ノ保險契約ノミヲ稱シテ重複
 保險ト云ヘリ然レトモ是等ノ例外ハ其實質ヨリ謂ヘハ例外ニ非スシテ不足ヲ
 補ヒタルニ外ナラス今左ニ保險價額ト保險金額トノ對照ヨリ生スル保險契約
 上ノ效果ヲ同一被保險利益ニ付キ唯一ノ保險契約アル場合ト數多ノ保險契約
 アル場合トニ區別シテ説明スヘシ

第一 唯一ノ保險契約アル場合

(甲) 保險金額カ保險價額ニ超過スル場合

此場合ニ於テハ超過部分ニ付テ保險契約ハ其效力ヲ生セサルモノナリ例
ヘハ金千圓ノ家屋ヲ金千五百圓ノ火災保險ニ付シタルトキハ其超過部分
タル金五百圓ニ付テハ契約ハ無効タル可キモノニシテ結局金千圓ノ保險
契約ト爲ルモノナリ而シテ保險者其被保險利益ノ客體ニ付キ生シタル損
害ノ全部ヲ填補スヘキモノナリ之ヲ稱シテ超過保險ト謂ヘリ(第三百八)

(乙) 保險金額ト保險價額トカ同一ナル場合

此場合ニ付テハ特ニ規定ナシト雖モ其被保險利益ニ付キ生シタル損害ノ
全部ヲ保險者ニ於テ負擔スヘキコト勿論ナリ之ヲ全部保險若クハ同額保
險ト稱ス

(丙) 保險金額カ保險價額ニ及ハサル場合

此場合ニハ保險金額ノ保險價額ニ對スル割合ニ依リ保險者ノ負擔ヲ定ム
可キモノナリ例ヘハ金千圓ノ家屋ヲ金五百圓ノ火災保險ニ付シタルトキ

第二 數個ノ保險契約アル場合

ハ保險者ノ負擔ハ二分ノ一ニ當リ將來生ス可キ損害ノ二分一ヲ填補スヘ
キモノトス之ヲ一部保險若クハ不足保險ト稱ス(第三百九)

此場合ハ更ニ數個ノ契約カ同時ニ取結ハレタル場合ト異時ニ取結ハレタル
場合トニ區別シテ説明スルコトヲ必要トス

(一) 數個ノ契約カ同時ニ取結ハレタル場合、但數個ノ契約ノ日付カ同一ナル
トキハ假令時間ノ點ニ於テ相違アルモノ同時ニ取結ハレタルモノト推定シ
反證ヲ舉クルマテハ之ニ從テ其法律關係ヲ定ム可キモノトス
(甲) 保險金額ノ總額カ保險價額ニ超過スル場合

此場合ニハ各保險者ハ其各自ノ保險金額ノ割合ニ依リテ其負擔額ヲ決
定スヘキモノナリ例ヘハ金千圓ノ家屋ニ付キ甲乙丙ノ三人カ八百圓五
百圓及ヒ三百圓ノ火災保險ヲ取結ヒタリトセンカ甲乙丙ノ三人ハ八ト
五ト三トノ割合ヲ以テ填補額ヲ分擔スヘキモノナリ但各保險者ノ定ム
タル主觀的保險價額カ異ナル場合ニハ個々ノ契約ニ付キ保險金額ト保

險價額トノ比例ヲ算出シ其割合ニ依リテ各自ノ負擔額ヲ決定スヘキモノトス(第三百八十七條)

(乙) 保險金額ノ總額ト保險價額トカ同一ナル場合

此場合ニハ各保險者ハ各自ノ約シタル割合ニ於テ唯一ノ保險契約アル場合ト同シク不足保險ノ原則ニ從ヒ其負擔額ヲ決定スヘキモノニシテ特ニ參照スヘキ法文ヲ存セス

(丙) 保險金額ノ總額カ保險價額ニ及ハサル場合

此場合モ亦(乙)ノ場合ト同一ニ解決スヘキモノニシテ特ニ説明ヲ加ヘス
(二) 異時ニ數個ノ保險契約カ取結ハレタル場合

(甲) 保險金額ノ總額カ保險價額ニ超過スル場合

此場合ニハ契約取結ノ順序ニ依リ前ノ保險者ノ約シタル保險金額ノ總額カ保險價額ニ超過シタリトセハ其超過部分ハ無効ニシテ其後取結ハル、保險契約ハ悉ク其效力ヲ生セサルモノトス例ヘハ千圓ノ家屋ニ付キ甲ハ既ニ千圓若クハ千五百圓ノ火災保險契約ヲ取結ヒタリトセハ其

後乙丙等カ保險契約ヲ取結フモ何等ノ效力ヲ生セサルモノナリ反之甲カ取結ヒタル保險金額カ千圓未滿ナルトキハ其不足部分ニ付テハ乙丙ノ契約モ其效力ヲ生スヘキモノナリ是レ第三百八十八條ニ規定スル所ナレトモ本條ノ解釋ハ多少疑ナキニ非ス何トナレハ前條ハ保險者ノ負擔額ノ點ヨリ立言セラレタルモ本條ハ損害負擔ノ點ヨリ立言セラレ隨テ損害ノ發生スルマテハ本條ノ適用ナキモノ、如キ外觀ヲ呈スレハナリ然レトモ是レ唯タ外觀ノミニ止マリ其實ハ契約取結ノ際ヨリ保險者ノ負擔部分ヲ決定スルモノト解セサル可ラス

(乙) 保險金額ノ總額カ保險價額ト同一ナル場合

此場合ニ付テモ甲ノ場合ニ付テノ説明ヲ悉ク適用シ得ヘク唯タ總保險契約カ全然其效力ヲ存スル點ニ付テ差異アルノミ

(丙) 保險金額ノ總額カ保險價額ニ及ハサル場合

此場合モ亦(甲)及(乙)ニ付キ説明シタル所ヲ適用シテ自ラ明瞭スヘシ以上同時又ハ異時ニ取結ハレタル數個ノ保險契約アル場合ニ於テ保險金額

保險法 第二編 特種保險法論 第一部 損害保險契約 總論 第二章 損害 五九
保險契約ノ要件 第三節 被保險利益

ノ總額カ保險價額ニ超過シタルトキハ之ヲ重複保險ト名ク然レトモ或學者ハ重複保險ナル名稱ヲ異時ニ數個ノ保險契約ヲ取結ハレタル場合ニノミ用ヒントスレトモ要スルニ用例ノ差異ニ過キサルナリ

保險金額ハ契約上決定スヘキモノナレトモ保險價額ハ必ラスシモ然ラサルコト前ニ述ヘタル所ナリ而テ假令之ヲ決定シタル場合ニ於テモ實際上其客觀的價額ハ常ニ多少ノ高低アルコトヲ免レス此客觀的價額ノ約定價額ヨリ増加シタル場合ハ保險契約ノ效果ハ依然トシテ保險金額ニ止マルヘシト雖モ之ニ反シテ其價額カ減少シタル場合ハ保險者ハ單ニ損害ノ生スルニ方テ填補ス可キ額ヲ決定スルニ付キ約定保險價額カ著シク過當ナルコトヲ證明シテ填補額ノ減少ヲ請求スルコトヲ得ヘク又保險契約者ハ損害ノ生スルヲ待タス保險者ニ對シテ保險金額及ヒ保險料ノ減額ヲ請求スルコトヲ得ヘキモノナリ但保險契約者カ此請求ヲ爲サスシテ從來ノ如ク保險料ヲ拂込ムニ於テハ法律ハ敢テ其利益ニ干渉スルコトナシ隨テ保險料減額ハ單ニ將來ニ向テノミ其效力ヲ生スルモノニシテ既ニ支拂ヒタル保險料ニ及ハサルモノ

トス尙ホ既ニ支拂ヒタル保險料ノ内事實上將來ニ對スル部分アルヲ常トスレトモ保險料不可分ノ原則ニ依リ保險料測定期間内ノ保險料ハ總テ保險者ヨリ拂戻スコトヲ要セサルナリ(第三百九十二條)

或被保險利益ニ付キ保險契約ヲ取結ヒタル後其被保險利益ノ體様ヲ成ス權利ヲ他人ニ讓渡ストキハ其保險契約上ノ權利ハ如何ナル變化ヲ受ク可キヤト云フニ當事者間ニ何等定ムル所ナキトキハ理論上ヨリスレハ保險契約上ノ權利ハ當然移轉スルモノニ非ス隨テ從來ノ被保險者ハ被保險利益ヲ有セサルニ至ルカタメ被保險者タル資格ヲ失ヒ隨テ債權者ノ欠缺ノ爲メニ保險契約上ノ權利ハ消滅スルモノト解セサルヘカラス然リト雖モ多クノ場合ニ於テハ或財産ノ讓渡ヲ爲ス者ハ故ラニ其財産上ニ存スル保險契約ノ效果ヲ消滅セシムル意思ナカル可ク其財産ノ讓受人モ其保險契約ノ效果ニ着眼スルモノ少ナカラサルヲ以テ第四百四條第一項ノ規定ヲ設ケ保險ノ目的ヲ讓渡シタル場合ニハ別段ノ意思ヲ表示セサルモ同時ニ保險契約ニ因リテ生シタル權利ヲモ讓渡シタルモノト推定シタリ但保險ノ目的ノ讓渡カ著シク危

・險ヲ變更又ハ増加シタル場合ニ於テハ保險者ノ利害關係甚々大ナルカ故ニ
此場合ニハ右ノ如キ推定ヲ爲サス反テ保險契約ハ其效力ヲ失フ可キモノト
定メタリ(第四百四項)

第四節 保險料

保險料ハ保險者カ損害填補義務ヲ負擔スル對價トシテ保險契約者ヨリ受取ル
可キ報酬ナリ或ハ相互保險ニ於テ保險會社ノ受取ル可キ出資額若クハ出資額
ノ一分ヲモ保險料ト稱スレトモ是等ハ本來ノ保險料ノ意義ニ非サルナリ故ニ
歐米ノ學者ハ營業保險ト相互保險トヲ區別スルカ爲メニ保險料ノ有無ヲ標準
トシ營業保險ヲ一名保險料保險ト謂ヘリ
保險料ノ計算ニ付テハ嘗テ保險技術ノ說明ニ於テ一言シタル如ク被保險利益
ノ價額並ニ之ニ對スル保險金額ト危險ノ確ラシサトヲ前提トシテ算出スヘキ
モノナルコト明確ナリ例ヘハ一萬圓ノ價額ヲ有スル家屋ノ所有權ヲ被保險利
益ノ體様トシテ火災保險約ヲ取結ヒタル場合ニ保險金額ハ一萬圓ニシテ家屋

ノ危險カ一ケ年千分ノ一ノ確ラシサアツトスレハ保險者ハ其危險負擔ノ對價
トシテ當然一ケ年金十圓ノ保險料ヲ受取ラサル可ラサルナリ而シテ尙ホ之ニ
營業費ト保險者ノ利益トヲ算入スヘキコト勿論ナルカ故ニ其等ノ合計ヲ金二
圓五十錢ト假定スレハ結局金十二圓五十錢ヲ以テ保險契約者ヨリ受取ルヘキ
金額トス此合計金十二圓五十錢ヲ營業保險料ト名ケ其中ノ金十圓ヲ純保險料
ト稱シ金二圓五十錢ヲ附加保險料ト名ク
保險契約ニ關シ保險料ハ不可分ナリトノ原則アリ此原則ハ第一所謂營業保險
料ニ付テ存スルモノナリヤ將タ亦ク純保險料ニ付テノミ存スルニ過キサルモ
ノナリヤヲ決定スルト同時ニ損害保險契約上支拂フ可キ總テノ保險料ニ對ス
ルモノナリヤ將タ亦ク一定ノ期間内ノ保險料ニノミ限ラル、モノナリヤヲ決
定セサル可ラス而シテ我輩ハ此不可分ノ原則ハ純險料ニ付テハ勿論營業保險
料ニ付テモ亦タ之ヲ存スルモノニシテ且又總テ保險料ニ對スルモノニ非スシ
テ保險料測定期間内ノ保險料ニ付テノミ其適用ヲ見ルモノト信ス左ニ此原則
ノ由テ來ル所以ヲ説明ス可シ

第一 營業保險料ノ性質ヨリ保險料不可分ノ原則ヲ説明スレハ抑モ營業保險料ナルモノハ純保險料及ヒ附加保險料ヨリ成立スルモノニシテ而シテ危險測定ノ期間内ニ於ケル純保險料ノ不可分ナル可キハ特ニ説明ヲ要セサル可シ然ラハ附加保險料モ同時ニ不可分ナルカヲ考フルニ附加保險料ノ額ヲ決定スル方法ハ種々アレトモ要スルニ保險ノ程度ト契約取結ニ要スル手數ノ多少トニ比例スルモノト云ハサルヘカラス然レトモ之カ爲メニ可分ノ性質ヲ具フルモノト解スルノ理由ナク加之純保險料カ不可分ナル以上ハ其不可分ノ性質ヲ享ケテ附加保險料モ當然不可分タル可ク尙ホ純保險料ト附加保險料トヲ分割スルコトカ保險契約ノ趣旨ニ反スルヲ以テ附加保險料ハ全ク不可分ノ性質ヲ有スルモノト謂ハサル可ラス隨テ營業保險料ハ何レノ點ヨリ觀察スルモ全ク不可分ノ原則ニ支配セララル、モノト解シテ誤ナカル可シ

第二 危險測定期間内ノ保險料カ不可分ナル所以ハ危險測定期間自身ノ不可分ナル原則ヨリ當然生スル結果ニシテ特ニ説明ヲ要セス但實際問題トシテハ保險契約カ効力ヲ生スル期間カ單一ノ危險測定期間ニ在ルカ將タ亦多數ノ

明三九ノ三
1/39

危險測定期間ニ亘ルカヲ決定スルコト困難ナル場合ナキニ非サル可シ何トナレハ前述セシ如ク純保險料ヲ先ツ算出シ以テ營業保險ヲ計算スルノ方法ニ出テサル場合實際上多ケレハナリ而シテ此等ハ事實問題トシテ各場合ニ從ヒ決定スルノ外ナシ

第三 最後ニ被保險利益ノ點ヨリ保險料ノ不可分ナル原則ヲ生スヘキヤ否ヤヲ研究スルニ被保險利益カ極メテ其價額大ナルトキハ或ハ被保險者ノ意思ニ因リテ故ラニ損害ヲ發生セシムルノ動機ヲ爲スコトアル可シト雖モ此等ハ全ク重複保險及ヒ危險ノ範圍ニ關スル商法ノ規定ヲ以テ保險者ノ利益ヲ充分ニ保護シ得ルモノニシテ特ニ保險料不可分ノ原則ヲ設ケテ迄モ之ヲ保護スル理由ト爲ス能ハス加之現ニ各保險者ノ契約取結ノ實際ヲ見ルニ保險料ハ保險金額ニ比例スルモノニシテ例ヘハ千圓ノ保險金額ニ對シ年額五圓ヲ標準トスレハ一萬圓ニ付テハ五十圓ノ割合ヲ保ツモノナリ故ニ被保險利益ト保險料不可分ノ原則トハ何等關係ナキモノト謂ハサル可ラス

第五節 損害及其填補

損害保險ニ於ケル重要ナル要件ハ損害及其填補ナリ此二個ノ觀念ハ第二節及第三節ニ於テ説明シタル危險并ニ被保險利益ヲ理解スレハ自ラ會得シ得ラル可キモノナリ即チ損害トハ損害保險契約上ノ危險ヲ實現シテ被保險利益ヲ減少シ若クハ滅失セシメタルニ因リ被保險者ニ生シタル財産上ノ不利益ナリ而シテ此不利益ヲ契約ノ趣旨ニ基キ被保險者ニ回復セシムルノ目的ヲ有スル保險者ノ給付ハ即チ損害ノ填補ナリトス

普通ニ説明スル所ニ依レハ損害ハ結果ニシテ危險ハ其原因ナリト謂ヘリ然レトモ保險契約上危險ト稱スルモノハ單ニ理想上ノコトニ屬シ損害ヲ惹起スル原因トシテ指示セララルヘキモノハ却テ或現實ノ事故ニシテ保險契約ノ要件タル所謂危險ニ非サルナリ例ヲ以テ之ヲ示セハ或家屋ヲ火災保險ニ付シタル場合ニ其所謂危險ナルモノハ其家屋カ常ニ有スル確ラシサノ程度ニシテ其確ラシサハ火災ニ罹リ家屋ノ燒失スルコトニ關スルモノナリ換言スレハ其火災保

險契約上危險ハ常ニ理想上存在セサル可ラサルモノナレトモ其家屋ノ住人カ火ヲ失シ若クハ近隣ニ火ヲ失スル者アリテ家屋ノ燃燒ヲ來シタルトキハ茲ニ始テ損害ヲ生スルモノニシテ危險カ實現シタリト稱セラル、モ其實ハ失火若クハ類焼ナル事實ガ損害ノ原因ト爲リタルモノニ外ナラス故ニ保險契約上危險トシテ指示セラレタル確ラシサノ事故ヲ危險事故若クハ危險事實ト稱シ生シタル損害ノ原因ヲ損害事故若クハ損害ノ事實ト稱シ二者ノ間ニ理想上一致ヲ存スヘキ必要アリト雖モ兩者ハ全ク別物タルコトヲ示ス而シテ此區別ハ講學上大ニ便利アルノミナラス正當ナル見解ニシテ我商法ノ如ク危險ナル語ヲ二様ニ解シ此兩者ヲ併セテ指示セントスルカ如キハ我輩ノ採ラサル所ナリ左ニ損害事故ノ發生シタル場合ニ付キ保險契約者及被保險者ノ負擔スル義務ト保險者ノ負擔スル義務トヲ區別シテ説明スヘシ

第一 保險契約者及被保險者ノ負擔スル義務

(甲) 損害防止ノ義務

商法第四百十四條ニ依レハ被保險者ハ損害ノ防止ヲカム可キ義務アリ茲ニ

損害ノ防止ト謂ヘルハ既ニ損害ヲ生シタル後ナルト其以前ナルトヲ問ハス
 苟モ損害事故カ發生シ之ニ因テ侵サル可キ被保險利益ノ存在スル間ハ之カ
 損害ヲ防止スヘキコトヲ指スモノナリ但損害ノ生セサル間ニ於テ既ニ損害
 事故アリト説明スルハ論理上多少矛盾スル所アルカ如ク解セラル、恐ナキ
 ニアラス何トナレハ損害ヲ發生セサル間ハ單ニ確ラシサノ問題ニシテ即チ
 危険カ著シク増加シタルニ過キス損害事故ハ未タ發生セサルモノナリトノ
 疑ヲ存スレハナリ我輩ノ解スル所ニ依レハ此見解ハ一部分眞理ヲ包含スル
 モノニシテ危険ニ著シキ増加アリタルコトハ爭フ可ラスト雖モ隣家ニテ火
 ヲ失シタル場合ノ如キ若クハ被保險物ヲ貯藏スル家屋ニ火ヲ失シタル場合
 ノ如キハ假令被保險家屋若クハ被保險物ニ其火災カ及ハサル場合ト雖モ單
 ニ危険カ著シク増加シタルノミニ止マラス被保險家屋若クハ被保險物ノ燒
 失ヲ來ス可キ現實ナル損害事實ヲ生シタルモノニシテ之ヲ單ニ危険事實ノ
 問題トシテ取扱フコト能ハサルモノトス
 損害防止ノ義務ヲ履行スルニ當テ被保險者ハ費用ヲ支出セサル可ラサル場

合アリ而シテ之ヲ被保險者ノ負擔ニ歸セシムルニ於テハ保險ノ目的ヲ貫徹
 スルコト能ハサルニ至ル何トナレハ損害保險ハ被保險者ノ財産状態ヲシテ
 危険ノ實現シタル後ト雖モ尙ホ其以前ト異ナルコトナカラシムルニ在ルカ
 故ニ損害防止ノ爲メ數多ノ費用ヲ被保險者ニ於テ負擔セサル可ラストスレ
 ハ當該保險契約ノ外ニ損害防止ノ結果タル費用ニ關シテモ亦更ニ損害保險
 契約ヲ取結ハサル可カラサル必要アレハナリ故ニ商法第四百十四條ハ被保
 險者カ損害防止ノ爲メ支出シタル必要又ハ有益ナリシ費用ハ全部保險者ニ
 於テ之ヲ負擔スヘク假令之ヲ損害填補額ト合算シテ保險金額ニ超過スルト
 キト雖モ尙ホ保險者ハ其全部ヲ負擔スヘキモノト定メタリ但一部保險ノ場
 合ニ在テハ保險者ト被保險者ト其危険ヲ分擔スルモノト解シテ誤ナキカ故
 ニ其損害防止ノ爲ニスル費用モ亦保險者ト被保險者トノ間ニ同一ノ割合ヲ
 以テ分擔スヘキコト當然ナリ然レトモ之ト反對ノ定メヲ特約スルコトヲ妨
 ケサルヤ特ニ説明ヲ俟タス(商法第四百十
 四條第二項)

(乙) 開陳責任

商法第四百十二條ニ依レハ損害事故カ發生シ從テ損害ヲ生シタル場合ニ於テ保險契約者又ハ被保險者カ其損害ヲ生シタルコトヲ知リタルトキハ遲滯ナク保險者ニ其旨ヲ通知スルコトヲ要スト規定セリ而シテ此開陳責任ノ基礎ハ契約取結ノ際ニ於ケル開陳責任ノ基礎トハ全ク異ナルモノニシテ損害額ノ決定ヲ正確ニシ保險者ヲシテ不當ニ多大ノ填補額ヲ支拂フコトナカラシムルカ爲メナリ尙ホ此開陳責任ニ付テ一ニ注意スヘキ點ハ第一此開陳責任ノ目的タル通知ハ單ニ保險契約者又ハ被保險者ヨリ保險者ニ對シテ發信スルヲ以テ足り其保險者ニ到達スルト否トヲ問フ必要ナシ第二保險契約者及ヒ被保險者ノ中何レカ一人此開陳責任ヲ實行スレハ可ナリ此點ハ法文上多少ノ疑ヲ存スレトモ此種ノ開陳責任ノ基礎ヨリ考フルトキハ斯クノ如ク解釋シテ誤ナカル可シ第三此開陳責任ヲ實行セサル效果如何ハ商法中明示スル所ナシト雖モ當事者間ニ特約ナキ限りハ之カ爲メニ増加シタル損害額ヲ填補額ヨリ除去スルコトヲ得ルニ止マリ保險者ヲシテ填補義務ヲ全然免レシムルニ至ラサルモノト解セザル可ラス而シテ開陳責任ヲ怠リタル爲

メニ何程損害額ヲ増加シタルヤハ之ヲ決定スルコト頗フル困難ナルカ故ニ保險者ハ此場合ノ制裁ニ關スル特約ヲ爲スコトヲ怠ルコトナキヲ要ス

第二 保險者ノ負擔スル義務

損害保險ニ於テ損害事故發生ノ結果タル損害ニ對シ保險者ハ之ヲ填補スル義務ヲ負擔スルコト當然ナリ此義務ヲ實行スルニ付キ先ツ第一ニ決定スヘキコトハ其生シタル損害額如何ノ問題ナリ即チ其損害ノ生シタル地及其時ニ於ケル被保險利益ノ客體ノ價額ヲ標準トスヘキモノニシテ其客體ノ全部ニ損害カ及ヒタルカ單ニ其一部分ニ止リタルカヲ決定セサル可ラス而シテ之ヲ決定スルニ付テハ種々ノ手段ヲ採ルヘキ必要アルヲ以テ之ニ要スル費用ハ何人カ負擔スヘキヤノコトヲモ決定セサル可ラス故ニ商法第三百九十三條第二項ニ於テ損害額計算ニ必要ナル費用ハ保險者ノ負擔タル可キコトヲ規定シタリ蓋シ損害防止ノ爲メニ必要ナリシ費用ヲ保險者ニ負擔セシムルト同一精神ニ基クモノナリ

以上ノ方法ニ依リ損害額カ決定セラレタルトキハ豫メ當事者間ニ保險價額

ノ定メアリタルヤ否ヤヲ考ヘ若シ特ニ之ヲ定メタル場合ニハ損害ノ生シタル地及ヒ時ニ於ケル被保険利益ノ客體ノ價額ト之ヲ對照シ其間ニ著シキ差異ナキカ若クハ保險價額カ當時ノ價額ヨリ少額ナルトキハ保險價額ヲ超過シテ填補額ヲ定ムルコトヲ得サルハ勿論ナリ反之其定メタル保險價額カ著シク過當ナルトキハ保險者ハ其填補額ノ減少ヲ請求スルコトヲ得ルモノナリ(商法第三百九十四條)此規定ニ依テ考フレハ保險價額ヲ豫メ主觀的ニ決定シタル場合ニハ損害額ヲ決定スルニ付キ特ニ其損害カ生シタル地及時ニ於ケル價額ヲ標準トスルニ及ハス先ツ保險價額ヲ標準トシテ損害額ヲ決定シ唯保險價額ト當時ノ價額トノ間ニ著シキ差異アリ而カモ保險價額カ著シク當時ノ價額ヨリ超過スル場合ニ限リ其超過部分ヲ保險價額ヨリ減少シテ填補額ヲ定ムレハ足ルモノト解スルヲ正當トス換言スレハ商法第三百九十三條第一項ノ規定ハ當事者間ニ保險價額ニ付キ主觀的決定チキ場合ニノミ適用セラル可キモノト解セサル可ラス

或損害事故發生シテ保險者ノ填補義務カ理論上確定シタル後ニ至リ其保險

者ノ負擔スル危險以外ノ事實ニ因リ被保險利益ノ殘部カ全滅シタルトキハ保險者ハ尙ホ填補ノ義務ヲ負フヘキモノナリヤ若シ此填補義務ヲ負擔スルトセハ其範圍ハ前ニ生シタル損害ノミニ限ルモノナルヤ又ハ全部ノ損害ニ及フモノナルヤ此問題ハ商法第四百十三條ノ規定ニ依リテ決定セラレタルモノナレトモ往々異說ヲ立ツル者ナキニアラサルヲ以テ一言之ヲ説明スルノ必要アリ即チ保險者ハ其負擔セサル危險ノ實現ノ結果ニ付キ填補ノ責任スヘキモノニアラサルト同時ニ一旦其負擔スヘキ危險ノ實現ノ結果タル損害ニ付キ填補義務カ確定シタル以上ハ縱令保險期間中ト雖モ他ノ事由ニ由リテ其損害填補義務ヲ消滅セシメサルヲ原則トス而シテ保險者ノ負擔セサル危險ノ實現シタル爲メ被保險利益ノ殘部カ滅失シタル場合ノ如キハ決シテ保險者ノ負擔ヲ減少セシムル理由トナラサルナリ故ニ商法第四百十三條ニ於テ保險者ハ其負擔スヘキ損害ヲ填補スル責ヲ免ル、コトヲ得スト規定シタル所以ナリトス或ハ此規定ヲ難シテ曰ク保險者カ其負擔スヘキ損害ヲ填補スル責ヲ免ル、コト能ハサルハ特ニ法文ヲ必要トセス故ニ第四百十

保險法 第二編 營業保險法論 第一部 損害保險契約 總論 第二章 損害保險 七三
 契約ノ要件 第五節 損害及其填補

三條ハ全部ノ損害ヲ填補スル責任アル趣旨ヲ明カニシタルモノナルヘシト我輩以爲ラク第四百十三條ハ左ノ趣旨ニ基クモノナルヘシ即チ若シ此條文ナキニ於テハ後ニ生シタル全部ノ滅失ハ前ニ生シタル一部ノ損害ヲモ包括シタルモノニシテ縱令前ノ損害ナカリシトスルモ後ノ滅失ノ爲メニ當然被保險利益ハ消滅シタルモノト看做サル從テ保險者ハ前ノ損害ニ付テモ填補ヲ爲スノ必要ナシト解セラル、ノ虞アレハナリ蓋シ老婆心的ノ規定タルノ批難ハ多少免カレサル所ナリ

損害額ヲ決定シタルトキハ保險者ハ其負擔部分ヲ被保險者ニ支拂ヒ保險契約上ノ法律關係ノ終了ヲ來ス可ク其支拂ハ被保險者ノ營業所若クハ營業所ナキトキハ其住所ニ於テ之ヲ爲ス可キナリ(商法第二百七十八條)此支拂義務ハ二年ヲ經過スルニ因リ時効ニ依リ消滅スヘキモノトス(商法第二百七十七條)

第三 保險者カ其填補義務ヲ實行シタル效果

保險者ハ其填補義務ヲ履行スルニ因リ保險契約上ノ債務ヲ其程度ニ於テ免カル、コト當然ナリ例ヘハ損害カ被保險利益ノ全部ニ及ヒタル場合ニ之ヲ

填補シタリトスレハ保險契約ハ之ニ因テ終了スヘク又損害カ被保險利益ノ一分ニノミ限ラレタル場合ニ之ヲ填補シタルトキハ其被保險利益ノ殘額ニ付テ保險者ノ義務ハ存續スルコト、爲ルカ如シ而シテ此以外ニ損害填補義務ノ履行ノ效果ヲ存セサルヲ原則トスルモ第四百十五條及第四百十六條ニ於テ之ニ例外ヲ認メタリ即チ其一ハ被保險者カ其保險ノ目的ニ付キ權利ヲ有スル場合ニシテ其二ハ損害カ第三者ノ行爲ニ因リテ生シタルニ因リ保險契約者又ハ被保險者カ此第三者ニ對シ損害賠償ノ請求權ヲ有スル場合ナリ抑モ損害保險ナルモノハ發生シタル損害ヲ其程度ニ於テ完全ニ填補スルコトヲ以テ主眼ト爲スカ故ニ保險者ヲシテ其受取リタル保險料相當ノ負擔ヲ爲サシメサル可ラサルト同時ニ是等相手方タル保險契約者又ハ被保險者ヲシテ保險者ヨリ損害ノ填補ヲ受ケタル結果損害ノ發生前ニ比シ財産ノ増加ヲ來サシムルコトヲ許サス隨テ被保險者カ保險ノ目的ニ付キ或權利ヲ有スル場合ニハ保險者ハ其損害ヲ填補シタル割合ニ於テ其權利ヲ之ニ代位シテ取得スヘキコト當然ナルト同時ニ保險契約者又ハ被保險者カ損害ノ發生ニ

保險法 第二編 營業保險法論 第一部 損害保險契約 總論 第二章 損害保險 七五
 契約ノ要件 第五節 損害及其填補 第六節 保險期間

因テ第三者ニ對シ損害賠償請求權ヲ取得セルトキハ保險者ハ其支拂ヒタル
 填補額ノ割合ニ於テ此賠償請求權ヲ代位シテ取得スヘキコト當然ナリトス

第六節 保險期間

保險期間タル語ハ商法第四百條第四百三條第四百十條第四百十一條其他ニ於
 テ用ヒラレタル所ニシテ保險契約上重要ナル觀念ノ一ニ算フヘク或學者ハ之
 ヲ以テ保險契約ノ要件ノ一トシテ論シタリ
 抑モ保險契約ニ關シテ爲ス期間ノ定メ方ニ三種アリ即チ其一ハ危險ノ確ラシ
 サノ計算ニ用フルモノ例ヘハ火災保險海上保險等ニ於テ一ケ年内ニ發生スル
 損害ノ額如何ヲ特定シ之ニ依テ危險ノ確ラシサヲ定ムルカ如シ其二ハ保險者
 カ危險ヲ負擔スル期間ニシテ例ヘハ何年何月何日午後四時ヨリ同年何月何日
 午後四時マテ危險ヲ負擔スト定メ若クハ或船舶カ横濱ヲ出帆シテ桑港ニ到達
 スルマテノ間危險ヲ負擔スト定ムルカ如シ其三ハ契約期間ニシテ例ヘハ横濱
 桑港ノ間ヲ二ケ月ニテ往復スル定期船ヲ一箇年間保險ニ付スルノ類是レナリ

而シテ此三者ハ一致スル場合アリ一致セサル場合アリ例ヘハ火災保險契約ニ
 於テハ一箇年ヲ危險測定ノ計算ニ用フルト同時ニ危險負擔ノ期間并ニ契約期
 間共ニ一箇年ナレトモ運送保險ニ在テハ危險測定ニ用フル期間ハ一箇年ニシ
 テ危險負擔ノ期間ハ多クハ場所ヲ以テ之ヲ指定シ契約期間ハ以上二者ニ關係
 ナク之ヲ定ムルカ如シ然ラハ商法ニ所謂保險期間ナルモノハ右三者中何レヲ
 指スモノナルカ我輩ノ考フル所ニ依レハ第二ノ危險負擔ノ期間ヲ指スモノニ
 外ナラスト信ス

第三章 損害保險契約ノ取結

損害保險契約ハ一般ノ契約ト同シク契約自由ノ原則ニ支配セララル、モノニシ
 テ特ニ之ヲ強制スルコトナシ唯或國ニ於テハ各種ノ損害保險例ヘハ市街家宅
 ノ火災保險家畜保險等ヲ強制スル一ニノ例外アルノミ
 損害保險契約ハ要式契約ニ非ス從テ其取結ニ付テ書面ノ作成ヲ必要トセス普
 通ニ保險者ヨリ申込證書ノ用紙ヲ契約者ニ提供シ之ニ必要ナル事項ヲ記入シ

タル後保險契約者ヨリ保險者ニ之ヲ送付スルヲ常トスレトモ損害保險契約取
結ノ要件ニ非ス又一般ニ損害保險契約ニ付テハ保險證券ナルモノ作成セラル
、ラ常トス即チ商法第四百三條ニ於テハ保險契約者ノ請求ニ因リ保險者ヨリ
之ヲ發行シテ交付ス。キモノト定メラレタレトモ是レ亦契約取結ノ要件ニ非
サルコト勿論ナリ但契約者ノ請求ニ因リ發行スヘキ保險證券ニハ第四百三條
第二項ニ掲ケタル要件ヲ具備セサル可ラス

損害保險證券ハ所謂檢認證券ノ一種ナレトモ有價證券タラサルヲ原則トス何
トナレハ其記名式無記名式若クハ指圖式タルヲ問ハス單ニ證據ノ用ニ供セラ
ル、ニ過キササルモノナレハナリ然ラハ無記名式タル證券ニ特別ノ約款ヲ付シ
テ其證券ノ所持人ニ非サレハ損害填補額ヲ拂渡サスト定メタル場合ハ如何此
場合ハ多少ノ疑アリト雖モ純然タル有價證券ト異ナルコトハ疑ナシ何トナレ
ハ被保險利益ヲ有セサルモノハ假令其證券ヲ所持スルモ損害填補ノ請求權ヲ
有スルコト能ハサルヲ以テ權利カ證券面ニ化體シタリト解スルコト能ハサレ
ハナリ

第四章 損害保險契約上ノ法律關係ノ變更

損害保險契約上ノ法律關係ハ契約取結以後其關係ノ消滅スルマテノ間ニ於テ
種々ノ變化ヲ受クル場合アリ而シテ之ヲ大別スレハ其一ハ主體ノ變更ニシテ
其二ハ内容ノ變更ナリトス

主體ノ變更ハ更ニ之ヲ分テ保險者ノ變更、保險契約者ノ變更並ニ被保險者ノ變
更ノ三者ト爲スコトヲ得。而シテ保險者ノ變更ハ從來ノ保險者カ其營業ヲ
他ニ讓渡シタル場合若クハ他ノ會社ニ合併シタル場合ニ生スルモノニシテ保
險契約者若クハ被保險者ノ變更ハ相續又ハ會社ノ合併ノ如キ一般承繼ノ場合
ト特別承繼トノ二アリ其他法律ノ規定ニ依リテ之ヲ生スル場合ナキニ非ス例
ヘハ商法第四百六條ニ定ムルカ如ク元來被保險者ハ保險料ヲ支拂フ義務ヲ負
擔セサルモノナレトモ保險契約者カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ在テハ保險
契約上ノ權利ヲ拋棄セサル限り保險料支拂ノ義務ヲ負擔スルモノトス但此場
合ニ於テ從來ノ保險契約者カ保險料支拂ノ義務ヲ當然免カル、ヤ否ヤハ解釋

上疑ヒアル可ク我輩ハ原則トシテ、保險支拂ノ義務ヲ免カル、モノニ非スト解
セリ尙ホ商法第四百四條ノ如キハ被保險者ノ變更ヲ推定スルモノニシテ保險
ノ目的ノ讓渡ニ伴ヒ保險契約上ノ權利カ移轉セサル旨ノ特約アリタルコトヲ
證明スルニ非サレハ保險ノ目的ノ讓受人ハ當然被保險者タルモノト推定セラ
ルハモノトス

損害保險契約上ノ法律關係ノ内容ニ變更アル場合ハ數多アリ其重要ナルモノ
ヲ舉クレハ(一)保險料ノ減額ヲ來ス場合(第三百九十二條、第三百九十三條、第三百九十四條、第三百九十五條)(二)保險料ノ返還ヲ
來ス場合(第三百九十九條、第四百條)(三)填補額ノ減少ヲ來ス場合(第三百九十九條、第四百條)(四)填補額ト
シテ定メラレタルモノ、外ニ保險者ノ負擔ヲ増ス場合(第三百九十四條、第三百九十五條)等ナリ
尙ホ保險者カ損害ノ填補ニ因リテ保險契約者及ヒ被保險者ニ代位スル場合(第四百十五條、第四百十六條)ノ如キモ之ヲ内容ノ變更ノ一ニ數フルコトヲ得ヘシ其他當事者間
ノ意思表示ヲ以テ法律關係ノ内容ニ變更ヲ加フルコトヲ得ルハ勿論ナリトス

第五章 損害保險契約上ノ法律關係ノ消滅

保險契約上ノ法律關係ハ其本來ノ消滅原因タル損害填補義務ノ履行ニ因リ消
滅スル外尙ホ數多ノ消滅原因ヲ存ス例ヘハ當事者間ノ契約ニ因リ若クハ當事
者ノ一方カ其有スル權利ヲ拋棄スルニ因リ法律關係ノ全部又ハ一分ノ消滅ヲ
來スカ如キ商法第四百四條第二項、第四百五條、第四百七條、第四百十條、第四百十
一條第二項等ノ法定原因アリ其他契約期間ノ滿了ニ因リテモ當然消滅ス可ク
尙ホ當事者カ消滅原因ヲ定ムル場合少カラス

各論

第一章 火災保險契約

第一節 火災保險契約ノ意義

火災保險契約ノ定義ハ商法中ニ之ヲ規定セスト雖モ商法第四百十九條其他ト
第三百八十四條ノ損害保險契約ノ定義ト對照スレハ之ヲ知ルニ難カラス即
チ火災保險契約トハ當事者ノ一方カ火災ニ因テ生スルコトアル可キ損害ヲ填
補スルコトヲ約シ相手方カ之ニ其報酬ヲ與フルコトヲ約スル契約ナリト謂フ

保險法 第二編 營業保險法論 第一部 損害保險契約 總論 第五章 損害保險 八一
契約上ノ法律關係ノ消滅 各論 第一章 火災保險契約 第一節 火災保

第二節 火災保險契約ノ當事者

火災保險契約ニ於ケル保險者ハ即チ火災保險株式會社ニシテ我國ニ於テハ明治火災保險株式會社東京火災保險株式會社日本火災保險株式會社酒造火災保險株式會社等ヲ初メトシ其他十數ノモノアリ又之カ相手方タル保險契約者並ニ被保險者ニ付テハ損害保險契約ノ總論ニ於テ述ヘタルモノ、外ニ説明スヘキモノナシ唯々保險契約者ト被保險者ト異ナル場合ノ著シキ例ハ倉庫會社カ寄託者ノタメニ受寄物ヲ保險ニ付スルカ如キ運送會社カ荷送ノタメニ運送品ヲ保險ニ付スル場合ノ如キ是ナリ

第三節 火災保險契約上ノ被保險利益

火災保險契約上ノ被保險利益ハ所有權ノ體様ヲ有スルモノニ限ルコトヲ原則トシテ其體様ノ建物タル場合ト動産タル場合トアリテ有價證券ノ如キハ

之ヲ保險ニ付スル場合極メテ少ナシ

商法第百二十一條ニ規定シタル保險契約ニ在テハ被保險利益ノ體様如何ハ頗ル疑問ナリ何トナレバ賃借人其他他人ノ物ヲ保管スル者カ支拂フコトアル可キ損害賠償ノタメニ其物ヲ保險ニ付シタルトキ云々トアルヲ以テ損害賠償ノ責任ヲ被保險利益ノ體様トスルモノナルカ將タ亦此物ノ所有權ヲ體様トスルモノナルカ解釋上疑ヒナキニ非サレハナリ我輩ノ解スル所ニ依レハ此場合モ亦タ所有權ヲ體様トスル純然タル火災保險ニシテ損害賠償ノ責任ヲ體様トスル所謂責任保險ノ一種ニ非スト爲ス何トナレハ若シ之ヲ責任保險ノ一種ト爲スニ於テハ之ヲ火災保險ノ規定中ニ存スル理由ナケレハナリ然ラハ之ヲ以テ所有權ヲ體様トスル火災保險ナリトスル以上ハ賃借人其他他人ノ物ヲ保管スル者ハ保險契約者ト爲ル可ク從テ商法第四百二條ノ規定ニ依リ所有者ハ當然損害ノ填補ヲ受クル權利ヲ取得シ得ヘク特ニ本條ヲ設クルノ必要ナシト論スル者アルヘシ然レトモ損害賠償ノタメニスル旨ヲ指示スルニ於テハ假令所有者ヨリ委任ヲ受ケス且其旨ヲ保險ニ告ケサルモ保險契約ハ效力ヲ有シ之ニ

保險法 第二編 營業保險法論 第一部 損害保險契約各論 第一章 火災保險契約 八三
 第一節 火災保險契約ノ意義 第二節 火災保險契約ノ當事者 第三節 火災保險契約上ノ被保險利益

因テ所有者ハ直接ニ保險者ニ對シテ損害填補ノ權利ヲ取得スルノ點ニ於テ一
大差異アルカ故ニ本條ヲ設ケタルモノト解セサル可ラス

第四節 火災保險契約上ノ危険

火災保險契約上ノ危険ハ火災タルコト當然ナレトモ其如何ナル原因ニ因ル火
災ニシテ體様ハ如何客體ハ如何等ノ問題ヲ確定セント欲セハ勢ヒ各火災保險
會社ノ保險約款ト慣習トニ之ヲ徵スルノ外途ナキ故ニ茲ニハ先ツ普通思想ニ
從テ火災ノ何タルコトヲ決定シ之ニ數多ノ例外ヲ存スルコトヲ述フヘシ
商法第四百十九條ニ依レハ火災ノ原因如何ヲ問ハス苟クモ火災ト看做シ得ヘ
キモノタル以上ハ商法第三百九十五條第三百九十六條ニ掲ケラレタル場合ヲ
除キ其他ハ皆テ火災保險契約上ノ危険タルコトヲ得ルモノト定メラル而シテ
各保險會社ハ其約款ヲ以テ之ニ二三ノ除外例ヲ設クルヲ見ル例ハ地震又ハ
噴火ノタメニ生スル火災ノ如キ保險ノ目的物ニ附屬スル機械汽管若クハ汽罐
ノ破裂等ヨリ生スル火災ノ如キ是ナリ

第五節 火災保險契約上ノ保險料

火災保險契約上ノ保險料ハ一ケ年ヲ以テ其測定期間ト爲スヲ原則トシ一ケ年
未滿ノ契約期間ヲ有スルモノニ付テハ特ニ割増保險料ナルモノヲ徵收ス其割
合ハ半年ノ期間ニ付テハ一割五分三ヶ月ノ期限ニ付テハ三割ト爲ス但我國ニ
特有ナル日掛保險ナルモノニ付テハ一定ノ割合アレトモ危險測定期間ヲ一ケ
年ト爲スカ如キ學理上ノ根據ナキモノニ非ス唯主務官廳ノ監督ヲ受クル必要
ヨリ名義上危險測定期間等ヲ云々スルニ過キス

第六節 火災保險契約上ノ損害及其填補

火災保險契約上ノ損害及其填補ニ付テハ主トシテ保險約款ノ定ムル所ニ依ル
モノニシテ商法ニ於テハ單ニ第四百二十條及第四百二十一條ノ二ケ條ヲ存ス
ルノミ而シテ第四百二十一條ニ付テハ既ニ前ニ述ヘタル所ナレハ茲ニハ唯第
四百二十條ニ付テノミ説明スヘシ

保險法 第二編 營業保險法論 第一部 損害保險契約 各論 第一章 火災保險 八五
契約 第四節 火災保險契約上ノ危險 第五節 火災保險契約上ノ保險料
第六節 火災保險契約上ノ損害及其填補

火災保險契約上ノ危険カ實現シテ損害ヲ生スル場合ニハ其防止ヲカム可キモ
ノナルコト一般ノ損害保險ニ於テ被保險者ノ義務トシテ述ヘタル所ニ同シ然
ルニ其防止ノタメニ必要ナル處分ヲ爲シタルニ因リ保險ノ目的物ニ付キ損害
ヲ生スルトキハ保險契約上ノ危険ノ實現ニ因ルニ非サルモ保險者ハ之カ填補
ヲ爲サ、ル可ラストスルハ火災保險契約上ノ保險者ニ固有ナル義務タリ

第七節 火災保險契約上ノ保險期間

保險期間ニ付テハ商法上何等ノ定メナク唯々我國ニ於ケル一般ノ保險約款ハ
保險者カ保險料ヲ領收シタル時ヲ以テ保險期間ノ始點ト爲ス而シテ此始點ヨ
リ起算シテ保險期間終了ノ日ノ午後四時ヲ以テ危險負擔ノ終了スル時ト爲ス
但此期間滿了ノ時ニ方リ契約ノ繼續ヲ爲スニハ默示ノ意思表示ヲ以テ足ルモ
ノトス即チ保險者カ保險料ヲ領收シテ其受取證ヲ交付スルドキハ契約ハ繼續
セラル、モノト看做サル、モノトス

第八節 火災保險契約ノ取結

火災保險契約ノ取結ニ付テモ亦主トシテ保險約款ニ讓ルモノニシテ唯商法上
ハ火災保險證券ノ記載事項ニ付キ第四百四十二條ヲ設ケタルニ過キス

第二章 運送保險契約

第一節 運送保險契約ノ意義

運送保險契約ノ定義モ亦タ商法中ニ之ヲ見サル所ニシテ唯々商法第三百八十
四條ノ損害保險ノ定義ト第四百二十三條ヲ比較對照シテ之ヲ決定シ得ルノミ
即チ運送保險契約トハ當事者ノ一方カ偶然ノ事故ニ因テ貨物ノ運送ニ付キ生
スルコトアル可キ損害ヲ填補スルコトヲ約シ相手方カ之ニ其報酬ヲ與フルコ
トヲ約スル契約ナリト謂フヲ得ヘシ

第二節 運送保險契約ノ當事者

保險法 第二編 營業保險法論 第一部 損害保險契約 各論 第一章 火災保險契約 八七
第七節 火災保險契約上ノ保險期間 第八節 火災保險契約ノ取結 第二章
運送保險契約 第一節 運送保險契約ノ意義 第二節 運送保險契約ノ當事者

我國ニ於テハ運送保險ヲ專業トスル會社ナク唯タ橫濱火災運送信用保險株式會社及ヒ帝國海上保險株式會社ノ二社カ之ヲ兼業トスルニ止マル而シテ運送保險ニ於ケル保險契約者ハ運送人タル場合多ク被保險者ハ其自ラ保險契約者タル場合ト否トヲ問ハス總テ荷送人タルヲ原則トシ稀ニ荷受人タルコトアリトス

第三節 運送保險契約上ノ被保險利益

運送保險契約上ノ被保險利益ノ客體ハ運送ノ目的物ナリ而シテ運送ノタメニ用ヒラル、用具即チ運搬具ナルモノハ之ヲ運送保險契約ノ目的物タラシムル場合ナキニ非スト雖モ普通ハ所謂運送品ニ限ルコト商法第四百二十三條以下ノ規定ニ依リ明白ナリ
運送品ノ保險ニ付テハ其保險價額ヲ運送中客觀的ニ知り得サルニ非スト雖モ頗フル困難ニシテ爭ヲ生シ易シ故ニ第四百二十四條ノ規定ヲ設ケ發送ノ地及ヒ時ニ於ケル價額ニ加フルニ到達地マテノ運賃其他ノ費用ヲ以テ保險價額ト

爲スヘキモノトセリ然ルニ運送品カ到達地ニ到達シタルニ因リ得ラル可キ利益ハ之ヲ到達地ノ價額中ニ加算セラル可キモノナレトモ其未タ到達セサル間ハ頗ル不確定ナルヲ以テ之ヲ保險價額中ニ算入セサルヲ原則トシ唯タ特約アル場合ニ限り之ヲ算入スヘキモノト定メラレタリ

第四節 運送保險契約上ノ危險

運送保險契約上ノ危險ハ之ヲ其實現スヘキ地域ト運搬具並ニ其運送方法ト危險ノ因テ來ル原因トノ三個ノ方面ヨリ確定スルコトヲ要スルモノニシテ第一及第二ノ點ニ付テハ概括的ニ之ヲ説明スヘカラスト雖モ第三ノ點ニ付テハ商法第四百二十三條ノ解釋上非常ニ汎濫ナル事由ヲ原因トスルモノ、如シ何トナレハ特約ナキトキハ運送人カ運送品ヲ受取リタル時ヨリ之レヲ荷受人ニ引渡ス時マテニ生スルコトアル可キ損害ヲ保險者ニ於テ填補スルヘキモノト規定セラレタレハナリ然レトモ其實各保險者ハ保險約款ヲ以テ數多ノ制限ヲ之レニ加ヘ火災水災強盜顛覆沈沒衝突乘上其他不可抗力ニ基因スル損害ノミヲ

保險法 第二編 營業保險法論 第一部 損害保險契約 各論 第二章 運送保 八九
險契約 第四節 運送保險契約上ノ危險

填補スルコトヲ定メ且商法第三百九十五條並ニ第三百九十六條ノ例外ノ外ニ
尙ホ地震海嘯又ハ噴火ノタメニ生シタル損害及ヒ虫害鼠害紛失破損中荷ノ濕
合ヒ荷造ノ不完全等ヨリ生シタル損害ハ悉ク保險者ニ於テ填補セサルコト、
定メタリ但戰爭其他ノ變亂ニ因リテ生シタル損害ノ如キハ特約ヲ以テ填補ノ
責任アル場合ヲ定メタリ

第五節 運送保險契約上ノ保險料

運送保險契約上ノ保險料ニ付テハ特ニ説明スヘキモノナシ唯商法第四百二十
六條ニ於テ運送上ノ必要ニ基ク一時的ノ運送中止若クハ運送ノ道筋又ハ方法
ノ變更ハ特約ナキ限り保險契約ノ效力ヲ失ハシメスト規定シタルカ故ニ此運
送ノ中止又ハ運送ノ道筋若クハ方法ヲ變更スルタメ保險料ニ何等影響ヲ及ホ
サ、ルコトヲ注意スヘキノミ

第六節 運送保險契約上ノ損害并ニ其填補

運送保險契約上ノ損害ハ運送人カ運送品ヲ受取リタル時ヨリ之ヲ荷受人ニ引
渡ス時マテニ生スルモノニ限ルコト商法第四百二十三條ノ規定スル所ナリ而
シテ損害ノ填補額ニ付テハ特ニ説明スヘキモノナシ

第七節 運送保險契約上ノ保險期間

運送保險契約ハ狹義ノモノト廣義ノモノトヲ問ハス何レモ保險者ノ危險負擔
ノ期間ヲ特定セラル、モノニシテ即チ運送品カ發送地ヨリ到達地ニ運送セラ
ル、期間カ保險期間タルヘキモノトス

第八節 運送保險契約上ノ取結

運送保險契約ノ取結ニ付キ一言スヘキハ商法第四百二十五條ニ規定セル保險
證券ノ要件ニシテ商法第四百三條ニ掲クル事項ノ外運送ニ固有ナル運送ノ道
筋及ヒ方法運送人ノ氏名商號運送品ノ受取及ヒ引渡ノ場所並ニ運送期間ノ定
メアルトキハ其期間ヲ保險證券ニ記載スヘキコト是ナリ

保險法
第二章 營業保險法論 第一部 損害保險契約 各論 第二章 運送保
險契約 第五節 運送保險契約上ノ保險料 第六節 運送保險契約上ノ
損害並ニ其填補 第七節 運送保險契約上ノ保險期間 第八節 運送保
險契約上ノ取結

第二部 生命保險契約

第一章 生命保險契約ノ意義

生命保險契約ノ意義ハ商法第四百二十七條ヲ以テ之ヲ規定シ當事者ノ一方カ相手方又ハ第三者ノ生死ニ關シ一定ノ金額ヲ支拂フコトヲ約シ相手方カ之ニ報酬ヲ與フルコトヲ約スル契約ナリト規定セリ而シテ生命保險契約ノ法律上ノ性質ニ付テハ數多ノ學說アリテ所謂保險說ト非保險說ト對立シタレトモ今日ノ有力ナル學者ハ皆ナ保險說ヲ採用セリ然ルニ保險說中之ヲ以テ損害保險ノ一種ト爲スモノト特種ノ保險ナリト爲スモノト相對立シ我商法ノ解釋上モ尙ホ此爭ヲ絶タス現ニ栗津法學士ノ如キ生命保險契約ハ損害填補ノ觀念ヲ有スルモノニシテ損害保險契約ノ一種ニ屬スト明言セリ吾輩ハ我商法ノ解釋上斯カル見解ヲ全然否認スルト同時ニ學理上ニ於テモ亦タ斯カル見解ニ一致スルコト能ハス何トナレハ我商法第三編第十章ヲ保險ト題シ其第一節ヲ損害保險トシテ第二節ヲ生命保險トシ此兩者ヲ對立セシメタルコト其理由ノ一ニシ

テ損害保險ニ付テハ第三百八十四條ニ其定義ヲ示シテ損害ノ填補ナルコトヲ要件トシタルニモ拘ハラス生命保險ニ付テハ第四百二十七條ニ其定義ヲ示シ單ニ一定ノ金額ノ支拂ナルコトヲ言明スルニ止マリタルコト其理由ノ二ナリ又損害保險ニ付テハ超過保險重複保險等ノ規定アレトモ生命保險ニ付テハ如斯規定ナク場合ノ如何ヲ問ハス一定ノ金額ヲ支拂フヘキモノト定メラレタルコト其理由ノ三ナリ是等ハ我商法上生命保險ヲ以テ損害保險ノ一種ニ非サルコトヲ示スノ理由タリ尙ホ學理上同一結論ニ達スヘキ理由ト爲スコトヲ得ルモノニシテ要スルニ生命保險ニ付キ損害填補ノ觀念ヲ發見スルコト到底不能ナリ若シ強ヒテ損害填補ナル觀念ヲ云々スルニ於テハ人ノ生死ハ當然損害ヲ生スルモノナリトノ前提ニ加フルニ契約上指定シタル者ノ生死ニ因テ惹起セラル、損害ノ額ハ契約上一定セラレタル金額ニ止マルコトヲ前提トセサル可カラス然ルニ如斯前提ノ不當ナルコトハ多ク説明ヲ要セスシテ明瞭ナリトス

生命保險契約ヲ以テ損害保險契約ニ非サル特種ノ保險契約ト爲ス見解ニモ亦

タ數多ノ分派アリテ或ハ之ヲ以テ貯金契約ト保險契約トノ混合制度ト爲シ或ハ之ヲ貯金保險ト爲シ或ハ之ヲ其種類ニ區別シテ貯金保險タル場合ト單純ノ定額保險タル場合トアルモノト爲セリ吾輩ハ生命保險ノ性質ヲ論スルニ付キ貯金ノ觀念ヲ援用スルハ頗ル重要ナルモノト信スレトモ生命保險ヲ悉ク貯金保險ト爲シ若クハ貯金保險ト單純ナル保險トノ混合ナリト爲ス說ニ一致スルコト能ハス要スルニ生命保險ナル特種ノモノアリト説明スルニ止ムヘシ

生命保險契約ハ大別シテ生存保險契約並ニ死亡保險契約及ヒ混合保險契約ノ三種ト爲スコトヲ得而シテ實際ニ於テハ死亡保險ナル名稱ノ代リニ終身保險ナル名稱ヲ付シ混合保險ナル名稱ノ代リニ養老保險ナル名稱ヲ用ユト雖モ孰レモ正確ナル用例ニ非ス何トナレハ所謂終身保險ナルモノ、中ニモ定期ノ死亡保險アル可ク又タ所謂養老保險ナルモノ、中ニモ未タ老年ニ至ラスシテ保險金ヲ受取ルコトヲ得ルモノアレハナリ

商法第四百二十七條ニ規定セル生命保險ナルモノハ所謂年金保險ナルモノヲ包含スルモノニシテ同條ニ用ヒタル一定ノ金額ナル語ハ民法第六百八十九條

ニ規定シタル終身定期金ナル語ト關係ヲ有スルモノナリ吾輩ノ解スル所ニ依レハ何レノ國ニ於テモ生命年金保險契約ナルモノヲ保險契約ノ一種ト認ムレトモ我商法トモ我商法上用語トセル一定ノ金額ナル語ハ所謂生命年金保險契約ニ於テ生存中ニ一定ノ金額ヲ支拂フコトヲ包含スルモノト解セサル可ラス而シテ民法第六百八十九條以下ニ指定セラレタル終身定期金契約中保險技術上生命保險契約ト同一ニ取扱フヘキモノナルコト疑ヲ容レサルナリ生命年金保險契約ハ第四百二十七條ニ該當スル生命保險ニ非スト雖モ之ヲ廣義ノ生命保險契約ノ一種トシテ取扱フコト正當ナルヘシ

第二章 生命保險契約上ノ要件

第一節 生命保險契約上ノ當事者

損害保險契約ニ於テハ嚴格ナル意味ニ於ケル當事者ハ保險者及ヒ保險契約者ナリト説明セリ生命保險契約ニ於テモ亦嚴格ナル意味ニ於ケル當事者ハ此二者ナリ然ルニ此二者ノ外ニ損害保險ニ於テハ被保險者ナル主格ヲ存シ保險契

保險法 第二條 營業保險法論 第二部 生命保險契約 第二章 生命保險 九五
 契約上ノ要件 第一節 生命保險契約上ノ當事者

約者自ラ之ニ當ル場合ト約三者之ニ當ル場合トアルコト前ニ述ヘタル所ナリ
生命保險ニ於テハ保險金額受取人ト被保險者トノ兩者ヲ存スルモノニシテ其
所謂被保險者ナルモノハ損害保險ニ所謂被保險者トハ全ク性質ヲ異ニスルモ
ノナリ

第一 保險者

生命保險契約上ノ保險者ハ株式會社ニ限ルコト他ノ營業ハ勿論損害保險營
業ヲモ兼スルコト能ハサルコト等ハ損害保險契約上ノ保險者ノ說明ニ依リ
既ニ明カナル所ナリ而シテ我國ニ於テ生命保險株式會社トシテ營業スルモ
ノハ其數頗ル多ク明治生命保險會社日本生命帝國生命仁壽生命共濟生命等
其數二十ヲ超ユル保險會社アリ

第二 保險契約者

保險契約者ニ付テハ大體損害保險契約上ノ保險契約者ニ付テ述ヘタル所ヲ
準用シ得ヘシト雖モ茲ニ一ノ注意ヲ要スルモノアリ即チ第三者ノ利益ノタ
メニスル損害保險契約ニ關スル規定タル商法第四百一條ハ生命保險ニ準用

セラル、ニ拘ラス第四百二條ハ其準用ナシ從テ保險契約者ハ保險者ニ對シ
保險料ヲ支拂フ義務ヲ負擔スルノ點ニ於テ損害保險契約ト同一ナレトモ契
約上ノ權利ヲ第三者ニ生スル時期ニ付テハ全ク之ト異ナリ民法第五百三十
七條第二項ノ規定ニ依リ第三者即チ受益者ノ意思ヲ保險者ニ對シ表示シタ
ル時ニ生スルモノト解セサル可ラス然ラハ保險契約者タル者カ委任ヲ受ケ
スシテ他人ノタメニ契約ヲ爲シタル場合ニ於テ其旨ヲ保險者ニ告ケサルト
キハ其契約ハ無効ナリヤ否ヤ本問ニ付テハ第四百二條ヲ生命保險ニ準用セ
サル結果當然有效說ニ歸着スヘキモノ、如ク見ユレトモ其實種々ノ疑問ヲ
包含スルモノナリ何トナレハ保險契約者カ他人ノタメニ契約ヲ爲シタル場
合ト謂フハ果シテ何人ノタメニスルモノナルヤ或ハ被保險者ノタメニ爲ス
モノト解セラル可ク或ハ保險金ヲ受取ル可キ者ノタメニ爲スモノト解セラ
ル可シ而シテ被保險者ノタメニ爲スモノト解スルニ於テハ其委任ヲ受ケス
シテ被保險者ノ身體診査ヲ爲サシムルコトハ殆ント不能ナル可ク從テ委任
ヲ受ケスシテ被保險者ノタメニ契約ヲ爲ス場合ハ極メテ稀ナル可シ然レト

モ此稀有ノ場合ヲ想像スルニ於テハ其契約ヲ有效ト解スルヲ原則トシ唯保險契約者及保險者カ相通シテ其保險契約取結ノタメニスルコトヲ隱蔽シテ身體診査ヲ爲シタルトキニ限り民法第九十條ノ規定ニ基キ之ヲ無効ト爲シ得ルノミ又其他人ナルモノヲ保險金額受取人ト解スルニ於テハ多クノ場合ニ於ケル生命保險契約ハ總テ委任ヲ受ケスシテ保險金額ヲ受取ルヘキ者ノタメニ取結フモノナレハ其有效ナルコト論ヲ俟タサル可シ

第三 被保險者

生命保險契約ニ於ケル被保險者ハ其契約上問題ト爲ス可キ生死ノ主體ナリ故ニ或ハ之ヲ被保險生命人ト名ク而シテ生命保險契約上ノ被保險者タル者ハ或ハ保險契約者タルコトアリ或ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者タルコトアリ或ハ全ク是等以外ノ第三者タルコトアリ何レモ其財産上ノ狀態如何ヲ問ハス生産能力ノ如何ヲ問ハス亦年齡ノ如何ヲモ論セサルモノナレトモ生命保險ノ技術上幼者并ニ老年者ハ被保險者タルコト能ハサルモノト定メラル而シテ普通ノ健康狀態ヲ保ツコトヲ必要トス唯例外トシテ特別ニ保險料ヲ割増

シテ不健康體ヲ被保險者ト爲ス場合アルノミ

第四 保險金額受取人

保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ保險契約者ニ於テ之ヲ兼ヌルコトアリ被保者ニ於テ之ヲ兼ヌルコトアリ又其以外ノ者ニ於テ之ニ當タルコトアリ而シテ保險金額ヲ受取ルヘキ者カ被保險者又ハ其相続人タル場合ノ外ハ被保險者ト親族ノ關係ニ立ツコトヲ必要トスルモノニシテ之ヲ被保險關係ト稱ス蓋シ親族ニ非サル者ハ猥リニ他人ノ生死ニ因テ一定ノ金額ヲ受取ル權利ヲ取得スルコト賭博ニ類スル行爲ヲ獎勵スルノミナラス被保險者ノ身體ノ危險ヲ惹起スコトアレハナリ然ルニ此點ニ付テハ實際上非常ノ不便ヲ生スルモノニシテ全然弊害ナキ場合ニモ親族ニ非サレハ生命保險契約上ノ利益ヲ受クルコト能ハサルコト生命保險ノ實益ヲ削減シ諸國ノ立法例ニ其比ヲ見サル不便アリト稱セラル吾輩ハ此親族關係ノ必要ヲ否認スルモノニシテ被保險者ノ承諾アル場合ニハ何人ト雖モ保險金額ヲ受取ルヘキ者ト爲ルヲ妨ケスト爲スヲ立法上宜シキヲ得タルモノト主張スル者ナリ

保險金額ヲ受取ルヘキ者ニ付テハ商法第四百一條ヲ準用セララル、モ第四百
 二條ハ準用セラレサルコト前述ノ如シ故ニ保險金額受取ノ權利ハ全ク民法
 第五百三十七條ニ規定シタル第三者ノ利益ノタメニスル保險契約ニ依テ生
 スルモノニシテ(保險契約者ト保險金額ヲ受取ルヘキ者ト限ニ在ラス)即チ保險金額ヲ受取ルヘ
 キ者ト指定セラレタル者カ受益ノ意思ヲ表示シタルトキハ此權利發生スル
 コト疑ナシ然ルニ商法第四百二十八條第三項第四項ニ依レハ保險金額ヲ受
 取ルヘキ者カ死亡シタルトキハ其保險金額受取ノ權利ハ相續人ニ移轉セ
 シテ保險契約者ヨリ更ニ保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ指定スルコトヲ得ヘク
 又之レヲ指定セスシテ單ニ被保險者ノ爲ニ積立タル金額ノ拂戻ヲモ請求ス
 ルコトヲ得ルモノト定メラル若シ保險者カ此選擇ヲ爲サスシテ死亡シタル
 トキハ被保險者カ保險金額ヲ受取ルヘキ者ト爲ルト定メラル此點ニ於テ被
 保險者ト保險金額受取人トノ間ノ關係止ミタル場合ト全ク其結果ヲ同フセ
 リ從テ解釋ニ派ニ岐レ同條ニ所謂保險金額ヲ受取ルヘキ者トハ未タ受益ノ
 意思ヲ表示セサル者ニ限ルト爲ス學者アリ或ハ已ニ受益ノ意思ヲ表示シタ

ルト否トヲ問ハス一般ニ保險金額ヲ受取ルヘキ者ト指定セラレタル者ヲ指
 スト解スル者アリ若シ前說ヲ採用スルニ於テハ既ニ受益ノ意思ヲ表示シタ
 ル保險金受取人カ確定シタルモノナルカ故ニ假令死亡スルモ其權利ハ相續
 人ニ移リ保險契約者カ任意ニ之ヲ消滅セシメ若クハ他ニ移轉スルコトヲ得
 サルハ勿論ナリ又後說ヲ是認スレハ既ニ受益ノ意思ヲ表示シ其權利ヲ有ス
 ル者モ其死亡ニ因リテ權利ノ消滅ヲ來ス從テ其權利ハ最高人的ノ性質ヲ有
 スルモノト解セラレシテ而シテ吾輩ハ從來前說ヲ主張シタレトモ從來ノ慣
 例ニ依レハ後說カ實際行ハレ居ルカ如シ要之兩說何レヲ採用スルモ保險金
 額ヲ受取ルヘキ者カ死亡シタルトキハ此規定ノ適用ナキコト勿論ナリ生命
 保險契約ヨリ生シタル權利即チ保險金額受取ノ權利ハ最高人的ノ權利ニ非
 ス從テ商法第四百二十八條第二項ハ容易ニ解スヘカラサル規定タリ即チ此
 權利ハ被保險者ノ親族ニ限り之ヲ讓渡スコトヲ得ルモノニシテ此讓渡ニ付
 保險契約者ハ何等干涉ヲ加フルコトヲ得ス若シ反對說ヲ採用シタリトスレ
 ハ當然相續人ニ移轉セサル權利カ權利者ノ意思ニ依リ何人ニテモ被保險者

ノ親族タル者ニハ之ヲ移轉スルコトヲ得ルモノト爲ル要スルニ第四百二十九條ノ一半ハ無意味ノモノト爲ル可シ

前ニ述ヘタル保險金額受取人ノ權利ニ付テノ説明ニ附帶シテ説明ヲ要スルコトアリ即チ其一ハ保險金額受取人トシテ指定セラレタル者カ死亡シ又ハ被保險者トノ關係カ止ミタルトキニ保險契約者ノ有スル選擇權ハ最高人的ノ權利ニシテ之ヲ他人ニ讓渡スコトハ勿論其死亡ニ因リテモ相續人ニ移轉セサルモノナルコト是ナリ其二ハ保險契約者カ契約ヲ解除シテ被保險者ノタメニ積立テタル金額ノ拂戻ヲ受クル權利ハ何人ニモ之ヲ讓渡スコトヲ得ルヤ否ヤノ問題シニテ第四百二十八條第二項ニ所謂保險契約ニ因テ生シタル權利ヲ廣義ニ解スレハ保險契約者ノ親族ニ限り之ヲ讓渡スコトヲ得ルモノ、如シト雖モ保險契約者ト被保險者トノ間ニ何等法定關係ヲ存スルコトヲ必要トセサルヨリ考フレハ前解釋ハ正當ナラサル可シ

第二節 生命保險契約上ノ危險

生命保險契約上ノ危險ハ被保險者トシテ指定セラレタル者ノ生存又ハ死亡ナリ之ヲ損害保險契約上ノ危險ト對照シ其差異ヲ求ムレハ前者ハ必ラスシモ財産上ノ損害ヲ惹起スヘキモノタルヲ要セスト雖モ後者ハ財産上ノ損害ヲ惹起スヘキモノタルヲ要ス蓋シ人カ一定ノ歲月ヲ經過スレハ其生産能力ヲ減少若クハ喪失スルヲ常トスレトモ之ニハ數多ノ例外アルヘク壯年者ニシテ生産能力ヲ缺クモノアルト同時ニ老年ニシテ生産能力ヲ増加スルモノアリ況ンヤ生存保險ニ於テ指定シタル年齢カ尙ホ壯年ナル場合ニハ契約取結ノ當時ヨリ生産能力ヲ増加スルコトヲ原則トスヘシ故ニ生命保險契約上ノ危險タル人ノ生存又ハ死亡ハ決シテ生産能力ノ減少又ハ喪失ニ着眼シタルモノニ非サルコト明白ナリ然ラハ人カ一定ノ歲月ヲ經過スレハ或費用ノ支拂其他ノ出捐ヲ爲サハル可ラサルヲ以テ此點ヨリ人ノ生存ヲ財産上ノ損害ト爲シ又人カ死亡スレハ相續人等ニ於テ葬式費用其他ヲ負擔セサル可ラサルヲ以テ此點ヨリ人ノ死亡ハ財産上ノ損害ヲ稱スルヲ得ヘキカ曰ク普通ノ場合ニ於テハ如斯結果ヲ存シ得ヘシト雖モ之ニ數多ノ例外アルヘキコト逐一説明スルノ要ナカルヘ

ク生命保険契約上此例外ニ付キ何等備フル所ナキカ故ニ生命保険契約上ノ危険ハ常ニ財産上ノ損害ヲ來スモノト謂フヲ得サルヘシ之ヲ要スルニ生命保険契約上ノ危険ハ主トシテ財産上ノ損害ニ着眼スルコト多シト雖モ之ヲ以テ其要件ト爲スモノニ非スト謂ハサルヘカラス

生命保険契約上ノ危険ハ單ニ人ノ生存又ハ死亡ナルコト前述ノ如シ故ニ死亡統計ナルモノハ直ニ之ヲ生命保険契約上ノ危険ノ抽象的測定ニ應用スルコトヲ得ヘク今日ノ如ク死亡統計カ益々精密ト爲リタル時代ニ在テハ生命保険制度ノ發達愈顯著ナルコト當然ナリ而シテ生命保険ニ應用スヘキ死亡統計ハ之ヲ大別シテ二種ト爲ス其一ハ國民的死亡統計ニシテ所謂身體診査ヲ用ヒサル生命保険契約ノ基礎トシテ最モ適當セリ其二ハ生命保険ヲ業トスル會社ノ經驗ニ基ク死亡統計ニシテ身體診査ヲ必要トスル生命保険契約ノ基礎タルモノナリ我邦ニハ藤澤理學博士ヲ初メ其他二三ノ學者并ニ實際家カ國民的死亡統計ヲ基礎トシテ所謂死亡生殘表ナルモノヲ作成シタルトモ其材料ノ不完全ナルカタメ學理上正確ナルモノト稱スヘカラス況ンヤ身體診査ヲ必要トスル生

命保険契約ノ基礎トシテ適當ナラサルニ於テヤ然レトモ我國ノ生命保険事業ハ其行ハル、日尙ホ淺ク隨テ其經驗ニ基ク死亡統計ノ豐富ナルモノナキカ故ニ或會社ハ藤澤理學博士等ノ死亡表ヲ用ヒ他ノ會社ハ外國ノ死亡表殊ニ英國十七會社表ナルモノヲ基礎トセリ隨テ各會社ノ經驗セル死亡率ハ常ニ此死亡表ノ示ス所ニ超過スルノ事實ヲ示セリ
生命保険契約上ノ危険ハ人ノ生存又ハ死亡ナルコト明カナリ而シテ生存ニ付テハ特ニ説明スヘキモノナシト雖モ死亡ニ付テハ其原因ニ制限アリ即チ商法第四百三十一條ハ被保險者カ自殺決闘其他ノ犯罪又ハ死刑ノ執行ニ因リテ死亡シタルトキ及ヒ保險金額ヲ受取ルヘキ者カ故意ニ被保險者ヲ死ニ致シタルトキハ何レモ保險者ニ於テ保險金額支拂ノ責任ヲ免カル、モノト規定シ尙ホ第四百三十三條ニ於テ損害保險ニ關スル第三百九十五條ノ規定ヲ準用シ戰爭其他ノ變亂ニ因リ被保險者カ死亡シタルトキハ特約ナキ限り保險者ハ保險金額支拂ノ責ヲ免カル、モノト定メタリ但保險金額ヲ受取ル可カ者カ故意ニ被保險者ヲ死ニ致シタル場合ヲ除キ其他ノ場合ニ於テハ保險者ハ被保險者ノタ

メニ積立テタル金額ヲ契約ノ趣旨ニ從ヒ保險契約者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ニ支拂フコトヲ要ス此外保險者ハ保險約款ヲ以テ特殊ノ原因ニ因ル危険ヲ除外スルコトナキニ非ス

損害保險ニ付キ開陳責任アルト同シク生命保險ニ付テモ亦之ヲ存スルモノニシテ之ヲ契約取結ノ際ノ開陳責任保險期間中ノ開陳責任并ニ危險實現ノ場合ニ於ケル開陳責任ノ三者ニ區別シ得ヘキモノタリ而シテ第一ノ場合ノ開陳責任ニ付テハ第四百二十九條ニ之ヲ規定シ損害保險契約ニ於ケル第三百九十八條ノ規定ト其實質ヲ同フシ唯其異ナル所ハ開陳責任ノ主體カ生命保險ニ在テハ保險契約者ノ外ニ被保險者ヲ加フルノ一事ナリ次キニ第二ノ開陳責任ニ付テハ第四百三十三條ヲ以テ損害保險ノ第四百十一條ヲ準用スルヲ以テ兩者ノ間ニ異ナル所ヲ示シ唯此準用ニ付テ疑ヲ生スルハ損害保險ニ於テ被保險者ト稱スルハ生命保險ニ於ケル被保險者ニ該當スルモノト解スヘキカ將又保險金額ヲ受取ルヘキ者ト解スヘキカノ問題ナリ吾輩ハ之ヲ保險金額ヲ受取ルヘキ者ナリト解セント欲ス次キニ第三ノ開陳責任ニ付テハ第四百三十二條ノ規定ヲ

存シ損害保險ニ於ケル第四百十二條ノ規定ト同一ナル實質ヲ有ス唯異ナル所ハ開陳責任ノ主體カ生命保險ニ在テハ保險契約者ノ外ニ被保險者及ヒ保險金額ヲ受取ルヘキ者アルコトヲ明示シ且損害保險ニ在テハ損害ヲ生シタルコト云々トアルニ對シ生命保險ニ在テハ被保險者ノ死亡シタルコト云々ト明示シタル點ニ在リ

第三節 生命保險契約上ノ保險料

生命保險契約ニ於テ保險料ヲ支拂フヘキ者カ保險契約者タルコト損害保險契約ニ於ケルト同シ(第四百三十三條)而シテ生命保險契約上ノ保險料ノ算出ニ付テハ其契約ノ種類異ナルニ從ヒ多少ノ差異アルトモ各保險者ノ採用スル死亡表ト利率トヲ基礎トシ之ニ保險者ハ手數料費用并ニ利益トシテ付加スヘキ付加保險料ヲ加ヘテ算出スルモノナリ

生命保險契約上ノ危險即チ被保險者ノ生死ノ儘ラシサヲ計算スルニ付テハ一ケ年ヲ測定期間ト爲スカ故ニ一ケ年ノ保險料ハ當然不可分ナリ而シテ保險者

ハ契約取結ノ當時ニ於ケル被保険者ノ年齢ヲ標準トシテ保険料ノ額ヲ定ムルカ故ニ毎年新々ニ契約ヲ取結フ場合ト數年ニ亘リテ契約ヲ繼續スル場合トノ間ニハ保險契約者ノ支拂フヘキ保險料ノ額ニ非常ノ差異アルコトヲ知ラサル可ラス

生命保險契約ハ生存保險タルト死亡保險タルトヲ問ハス保險期間カ一年以上ニ亘ルヲ以テ常トスルカ故ニ保險者ハ毎年其受取リタル保險ノ一分ヲ積立テ之ニ一定ノ利子ヲ計算スヘキモノトス更ニ之ヲ詳言スレハ保險者ノ受取ル可キ保險料ノ内附加保險料ナルモノハ其積立ト何等關係ナキハ勿論ニシテ其他ノ部分即チ純保險料ハ總テ積立テラルヘキ性質ヲ有スルモ尙ホ其全部ヲ積立ツルモノニ非ス蓋シ當該年度中其被保險者ニ對シ危險カ實現セサリシトスレハ其純保險料ハ分レテ二ト爲リ其一分ハ他ノ被保險者中危險ノ實現セルモノニ對シテ拂渡サルヘキ保險金額ノ共同負擔部分ヲ構成シ其殘分ハ保險者ニ於テ之ヲ當該被保險者ニ對シ積立ツヘキモノナリ此積立テラルル金額ヲ責任準備金ト稱ス而シテ此責任準備金計算ノ方法ハ上述ノ方法ヲ最モ安全ナルモノ

トシ之ヲ純保險料式ト稱スレトモ保險者ハ其營業ヲ開始シテヨリ未タ幾何ヲモ經過セサルタメ其契約セル保險金額ノ總額ト其營業ニ要スル經費トノ割合平均セシテ爲メニ附加保險料中ヨリ營業費ヲ支出スルコト能ハサル場合ニ在テハ純保險料式責任準備金トシテ積立テラルヘキ金額中ヨリ一定ノ割合ヲ減額シ後日之ヲ填補スル方法ヲキニ非ス要スルニ如何ナル方法ヲ採用スルヤハ保險者ノ任意ニ之ヲ定ムルコトヲ得サルモノニシテ總テ主務官廳ノ許可ヲ必要トスルモノトス

責任準備金ナルモノハ株式會社ノ法定準備金ノ如ク單ニ計算上ノ金額タルニ止マルモノニシテ保險者ノ損益ヲ計算スルニ付キ必要ナルモノナレトモ之ヲ特殊ノ財團ヲ組成セルモノ、如ク解スルハ誤ナリ尙ホ責任準備金ヲ以テ貯金ノ一種ナリト爲スモ亦法理上正鵠ヲ得タルモノニアラス

生命保險契約ニ於テ保險者ハ或一定ノ場合ニ保險料ノ返還ヲ爲スコトヲ要セサルニ非スト雖モ（第四十三條）多クノ場合ニハ單ニ被保險者ノ爲ニ積立テタル責任準備金ヲ拂戻スヲ以テ足ルモノトシ尙保險約款ヲ以テ責任準備金ヨ

リ少ナキ一定ノ金額ヲ拂戻ス場合ヲ規定スルコト少ナカラス
 保険料支拂ノ方法ハ其生存保険タルト死亡保険タルトヲ問ハス契約取結ノ際
 同時ニ之ヲ支拂フ場合ト保険期間内ノ全部又ハ或部分ニ亘リ同一若クハ遞減
 ノ割合ヲ以テ支拂フ場合トアリ而シテ後者ハ一ケ年分ハ前拂タルヲ通例トシ
 毎月拂三ヶ月拂毎半年拂等ノ方法ニ依ルコトナキニアラス
 保険料支拂ノ義務ハ之ヲ支拂フヘキ時ヨリ起算シテ一ケ年ヲ經過スレハ時効
 ニ罹ルモノトス(第四百三十三條第
 四項)

第四節 生命保險契約上ノ保險者ノ給付

損害保險契約ニ於ケル保險者ノ給付ハ損害填補ヲ主要ナルモノトス然ルニ生
 命保險契約ニ於テハ損害填補ナル觀念ナク單ニ保險金額ノ支拂ヲ主要ナルモ
 ノト爲スニ過キス

保險者ハ保險金額ヲ定ムルニ付キ最高限並ニ最低限ヲ設クルヲ常トシ而シテ
 此限度ハ我國ノ如ク一般富ノ程度低キ社會ニ在テハ歐米ノ如キ富ノ程度ノ高

キ社會ニ比シ非常ニ低ク殊ニ歐米ニ在テハ最高限ヲ設ケサル保險者少ナカラ
 サルニ反シ我國ニ在テハ殆ント皆テ最高限ヲ設ケ居レリ
 保險金額ノ支拂ハ危險實現ノ場合ニ在リ而シテ生命保險契約上ノ危險ハ被保
 險者ノ生存又ハ死亡ナレトモ生存ノ場合ニ付テハ開陳責任ノ規定ナシ是レ生
 存ノ場合ニハ之カ通知ヲ爲サ、ルモ保險者ニ損害ヲ生スヘキ恐ナキニ依ルモ
 ノナリ

保險金額支拂ノ義務ハ之ヲ支拂フヘキ時ヨリ起算シテ二ケ年ヲ經過スルニ因
 リ時効ニ罹ルモノトス(第四百三十三條
 第四項)

第三章 生命保險契約ノ取結

生命保險契約ノ取結ニ付テハ大體損害保險契約ノ取結ニ付テ述ヘタル所ト同
 シ唯異ナル所ハ被保險者ノ生死ヲ法定要件ト看做スカ故ニ被保險者ノ健康狀
 態ニ關スル詳細ナル説明ヲ保險契約者及ヒ被保險者ヨリ保險者ニ對シテ爲ス
 ヘキハ勿論保險者ハ更ニ醫師ヲシテ其被保險者ノ身體ヲ診査セシメ被保險者

ハ此醫師ニ對シテモ詳細ナル陳述ヲ爲サ、ル可ラサルニ在リ但開陳責任ノ範圍ハ何レノ程度ニマテ及フヘキカハ契約取結ノ基礎ト爲ルヘキ保險約款及ヒ申込證書等ノ記載ニ依リ判斷スヘキモノトス而シテ歐米ニ於テハ近頃身體診査ヲ必要トセサル死亡保險ナルモノ發達シ來レリ吾輩ハ之ヲ簡易生命保險ト名クレトモ未タ我國ニハ實行セラル、ニ至ラス

生命保險契約ノ取結アリタル後保險者ハ保險契約者ノ請求ニ因リ生命保險證券ヲ之ニ交付スルコトヲ要スルモノニシテ此保險證券ノ要件ハ第四百三條二項ニ掲ケタル事項ノ外第四百三十條ニ之ヲ掲ケタリ而シテ此規定ニ付テ注意スヘキハ保險金額ヲ受取ルヘキモノヲ定メタルトキハ其者ノ氏名トアルコト竝ニ被保險者トノ親族關係トアルコト是ナリ前者ノ意味ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ヲ全ク定メス被保險者トノ間ニ法定關係ヲ有スルモノニシテ保險證券ヲ所持スル以上ハ保險金額ヲ受取ルコトヲ得ルモノト定ムルコトヲ得ヘキ意味ナルカ將タ亦タ保險金ヲ受取ルヘキモノヲ定メサルトキハ被保險者ノ相續人ノミ受取權ヲ有スト爲スノ意味ナルカ吾輩ノ考フル所ニ依レハ保險金額受

取人ヲ指定セサルトキハ被保險者ノ相續人カ受取人タルヘキモノト解シ得ヘキモ保險證券ノ所持人ヲ以テ受取人ト定ムルコトヲ妨ケサルモノト信ス又後者ニ付テハ親族關係ヲ云々シテ相續關係ニ言及セサルハ證券面ニ相續關係ヲ記載スル必要ヲ認メサルノ意味ナルカ將タ亦タ勿論解釋ニ依リ之ヲ記載セサルヘカラスト解スヘキカ吾輩ハ普通ニ相續關係ヲ記載スルヲ例トスルモ保險證券ノ要件トシテハ之ヲ記載スルニ及ハスト信ス

第四章 生命保險契約上ノ法律關係 ノ變更消滅

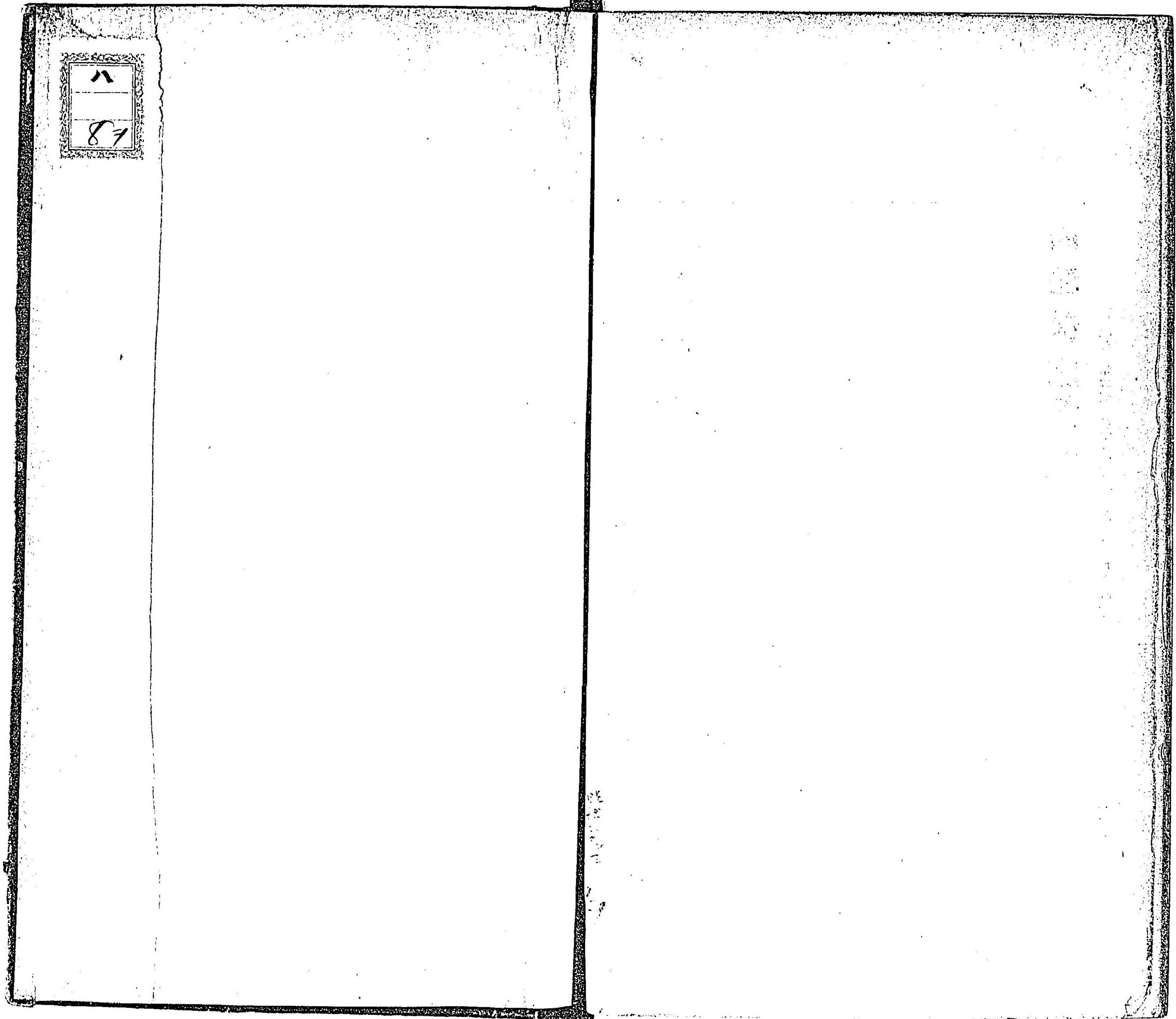
損害保險ニ於テ被保險利益ニ關シ法律上生スヘキ種々ノ變更ハ全ク生命保險ニ於テ之ヲ存セスト雖モ危險ニ關シテ生スル變更其他ハ何レモ皆生命保險ニ準用セラル又生命保險契約上ノ法律關係ノ消滅ニ付テモ損害保險契約ニ於テ被保險利益ニ關スルモノ、外ハ悉ク之ヲ準用シ得ヘキモノニシテ此外尙ホ生命保險契約ニ固有ナル消滅原因ハ法定關係ノ止ムコト是ナリ

第三部 再保險契約

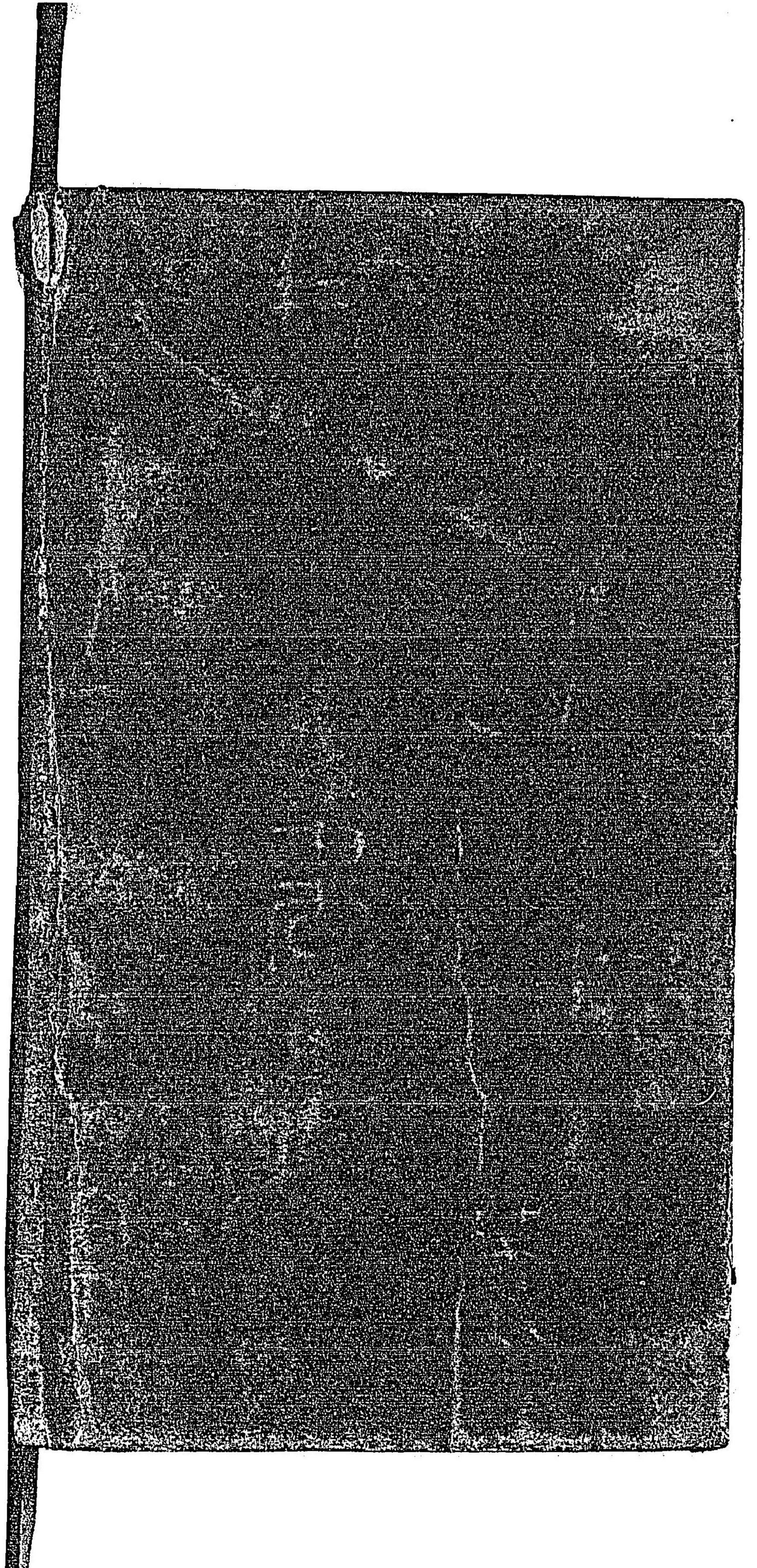
再保險契約トハ當事者ノ一方カ或保險契約ニ於テ保險者トシテ損害填補若クハ保險金額支拂ノ債務ヲ負擔スルニ當リ更ニ之ヲ被保險利益ノ體様トシテ相手方ト損害保險契約ヲ取結フ場合ナリ故ニ再保險契約ハ其前提タル保險契約カ損害保險契約タルト生命保險契約タルトヲ問ハス何レモ本來損害保險契約タルノ性質ヲ有スルモノト謂ハサル可ラス但保險業法ニ於テ生命保險ト損害保險トヲ同一會社ニ於テ營業ノ目的ト爲スコトヲ得スト規定シタル意義ニ依レハ生命保險ヲ前提トスル再保險ハ生命保險中ニ數ヘサル可ラス何トナレハ再保險ハ其前提タル保險ニ在テ事實上ノ取扱ヲ爲スヘキモノナレハナリ再保險ナルモノハ一名之ヲ戻保險ト稱ス商法及ヒ保險業中ニハ之ニ關スル規定ヲ存セサルモ保險業法施行規則中ニ此用語アリ且何レノ國ニ於テモ實際ニ行ハル、所ニシテ現ニ損害保險ニ付テハ我國ニモ實行セラル、モノタリ

商法保險法

畢



87



明治大正三十九年度
法律講習録

法律講習録
保險法講義

志田 鉦太郎

035453-000-8

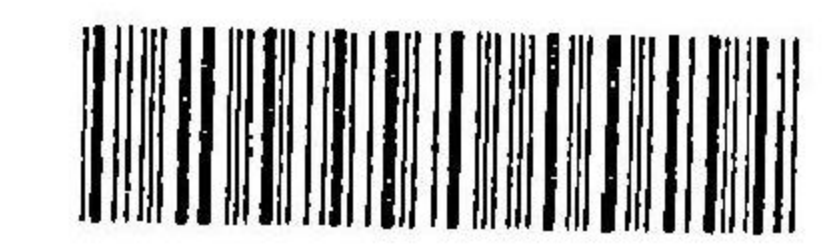
ハ-8ヲ

保險法講義

志田 鉦太郎 / 述

M39?

BBO-0653





明治大學三十九年度
法學科第三學年講義錄

高橋保
保險法講義

志田鉦太郎